

日本王代一覽

五

リ 5
5155
5



門 95
號 5155
卷 5

林董藏書

日本王代一覽卷之五目錄

一葉
三 上御門院

在位十二年

正治二。建仁三。
元久二。建永。
承元四。

十葉
四 順德院

在位十一年

建曆二。建保六。
承久三。

十九葉
五 後堀河院

在位十一年

貞應一。元仁一。
嘉祿一。安貞二。
寬喜二。貞永一。

廿二葉
六 四條院

在位十年

天福一。文曆一。
嘉禎三。曆仁一。
延應一。仁治二。

廿六葉
七 後嵯峨院

在位四年

寬元四。

廿九葉
八 後深草院

在位十三年

寶治二。建長七。
康元。正嘉二。

正元

八世一葉龜山院

在位十五年
文應一。弘長二。
文未十。

九四一葉後宇多院

在位十三年
建治三。
弘安十。

九四一葉伏見院

在位十三年
正應五。
永仁六。

九五十四葉後伏見院

在位三年
弘安三。
貞和四。

九五十四葉後二條院

在位六年
嘉元三。
長祿三。

九五十四葉花園院

在位十一年
長祿三。
應永二。

四五十四葉土御門院

在位十二年
元弘二。
長祿三。

日本五代一覽卷之五

八十三代

土御門院 後鳥羽院ノ太子ナリ。諱ハ爲仁母八源在

子。承明門院ト號ス。法印能圓カ娘ナリシヲ。内大臣

源通親養テ。後鳥羽院ヘマイラセ。建久六年十二月

爲仁ヲ誕生シ。同十九年正月ニ讓ヲウケ。三月即

位。時四歳。近衛關白藤原基通攝政。後鳥羽院ニ太

二天皇ノ尊號ヲ奉ル。院中ニテ政務ヲ沙汰セラル。然

トモ。何事モ皆源頼朝關東ヨリハカラヒ申サル

十月京都ノ守護。中納言藤原能保卒ス。歳五十二

十一月。花山院右大臣藤原兼雅。左大臣ニ轉シ。大炊

御門大納言藤原頼實。右大臣トナル。十二月。相模國

ノ士シ縮毛シ三郎重成其亡妻ノ追善ニ相模河ノ橋ヲ
カク重成カ亡妻公北條時政カ娘ニテ頼朝室家平
政子ト姉妹十九ニ橋供養ノ時頼朝モ其場へ行向
ク歸路ニ落馬シテ遂ニ病ニ罹ル俗説ニ此時八的原
ニテ義經行家カ怨靈現レ縮村嶺ニテ安徳天皇ノ
御靈現スト云リイフカシ

正治元年正月十一日征夷大將軍正二位前大納
言右大將源頼朝病ニヨリテ髮ヲソリ十三日ニ逝去歲
五十三治承四年ヨリ今年ニテ世ヲ治ルコト二十年
ナリ頼朝ノ御臺所平政子尼トナル嫡子右少將頼
家十八歳ニテ家督タリ外祖北條時政執權タリ
頼朝出張ノ始ヨリ時政輔佐トナリテ威ヲ振シカ

此ヨリ其權勢日々盛ニシテ扇ヲ並ル者ナシ其子義
時智謀アリテ其勢父ニ相ツケリ同月廿日頼家
左中將ニ轉ス同廿六日頼朝遺迹ヲツキテ家人即從
等ヲシテ諸國ノ守護ヲ奉行セシムヘキヨシ宣下セラ
ル二月釋奠并ニ大原野ノ祭ヲ止ラル頼朝ノ穢氣
ニヨリテナリ此ニヨリテ鶴岳ノ祭モ一箇月延引ス
四月頼家營中ノ郭外ニ新ニ問註所ヲ作ルニ善ト信
ヲ執事トシテ誹論ヲ決ス此後頼家政ニウモテ時政廣
元善信并ニ三浦義澄八田知家和田義盛梶原景
時比企能負藤九郎盛長等相談ニテ大小事ヲ執行
掃部頭藤原親能ヲ京都ノ奉行トス小笠原彌太郎
比企三郎同彌四郎中野五郎四人頼家ニ近侍シ

此外八頼家ノ前へ出ルアタハス。此四人ハ鎌倉中
ニテ狼籍スレトモ沙汰ニラヨス。同月。高雄文覺
謀反ノタクニアリテ。後鳥羽上皇ノ第二宮ヲ即位
セシメントス事アラハレテ。隱岐國へ流サレ此ヨリテ。平
惟盛カ子。六代禪師モ殺ル。五月。僧俊祐宋國へ
赴ク。六月。花山院左大臣兼雅上表ス。右大臣藤
原頼實。太政大臣ニ任ス。内大臣藤原良經。左大臣トナ
ル。大納言藤原家實。右大臣トナル。大納言源通親
内大臣トナル。八月。頼家。足立景盛カ妾ヲ奪フ。此
ニヨリテ。景盛怨ラシムヨシ。景時讒レケレハ。景盛夕
テ。千討レントス。平政子ノアツカヒニヨリテ免タリ
十月。結城朝光頼朝ヲ慕テ頼家ヲ怨ルヨシ。景時

讒言レケレハ。朝光恐テ。和田義盛。三浦義村。藤九
郎盛長等ト談合レ。千葉介常胤。小山朝政。畠山重
忠等以下六十六人。鶴岳ニ會合レ。連判ノ狀ヲ以テ。
景時カ罪ヲ訟廣元ヲタノミテ。頼家ニ奉ル。此ニヨリテ。
景時鎌倉君ニタマリエス。相模ノ一宮へ逃カクル。十一月。
頼家。比企能負カ宅ニ行テ蹴鞠。頼家ハ八々此戲ヲ十
ス能負カ娘。頼家ニ寵セラレ能負此ヨリ威ヲ振ヘリ
十二月。小山朝政播磨守護ニ任セラレ。京都ヲ守護ス
二年正月。梶原景時謀叛ノ志アリテ。甲斐源氏。武田
有義ヲ取タテント約シ。急キ上洛シ。院宣ヲ給リ。筑紫
ヲ取ントハカル。駿河國ヲ過時。在國ノ武士等サヘキリテ
合戦レケレハ。景時并其子景季。景高。景茂等。一族皆

殺サル有義以下其同類處々ニテ殺ル 一二月政子
鎌倉ノ壽福寺ヲ立テ僧榮西ヲレテ居レム 三月
北條時政遠江守ニ任ズ 七月花山院左大臣兼雅薨
ス歳五十三 十月頼家從三位ニ叙シ左衛門督ニ
任セラル 十一月近江國土柏原彌三郎勅命ヲソ
ムクニヨリテ頼家ニ命メ武士ヲレテ誅セム此奥
州ノ芝田ト云者謀叛ス頼家武士ヲ遣シテ誅セシム
建仁元年正月主上院御所へ朝覲ノ行幸京都ノ
守護小山朝政佐佐木定綱モ供奉ス此時城長茂ト
云者朝政カ宅へ攻來ル朝政ガ家人此ヲ伐敗リケレ
公長茂仙洞へ馳入テ鎌倉ヲ亡サント申ス勅許ナ
キニヨリテ逃走ル朝政此ヲ尋求メ吉野ニテ捕テ殺

ス泰衡カ弟高衡モ其黨類ニテ同殺サル長茂ハ
越後ノ住人ナリ其甥資盛越後ニアリテ鳥坂城
ニモル越後佐渡ノ武士此ヲ攻ム資盛力叔母坂額ト
云者能射能戰テ寄手多討ル 四月佐佐木盛綱
頼家ノ命ヲ受テ鳥坂城ヲ攻敗リ坂額ヲ生取ル
資盛ハ逃去ル坂額ヲハ鎌倉へ遣ス阿佐利義遠此ヲ
申受テ妻トス坂額甚醜トイヘトモ其武二男アルニヨ
リテナリ 七月頼家百日ノ蹴鞠ヲ催シ紀内行
景ト云鞠ノ上手ヲ京都ヨリテ子キ師トス毎日此
遊戯ヲ事トス北條泰時近臣ニ就テ其政ニヲコタ
ルヲ諷諫スレトモシタカハス泰時ハ時政ガ孫義時
カ嫡子ナリ 十二月上皇倭歌所ヲ置テ源家長ヲ

開闔トス藤原清範鴨長明藤原秀能ヲ寄人トス
上皇倭歌ヲ好テ尤其道ニ達シ給フ始延喜ノ御
時紀貫之等ニ命メ古今集ヲ撰レヨリ村上ノ時大
中臣能宣源順清原元輔紀時文坂上望城五人ニ
命ジテ後撰集ヲ撰レ一條院ノ時藤原公任拾遺
集ヲ撰レ白河院時藤原通俊後拾遺ヲ撰レ崇徳
院ノ時源俊賴金葉集ヲ撰レ近衛院ノ時藤原顯
輔詞花集ヲ撰レ後白河院ノ時藤原俊成千載集
ヲ撰ス今又上皇源通具藤原有家藤原定家藤原
家隆藤原雅經ニ命ジテ新古今集ヲ撰セシメ古今
ヨリ此ニテテラハ八代集ト號ス

二年正月從五位大炊助新田義重卒ス 六月建仁

寺ヲ立テ禪宗ヲ始メ榮西開山タリ 七月頼家

從二位ニ叙シ征夷大將軍ニ任ス 十月又我内大臣源
通親薨ス歳五十四大納言藤原隆忠内大臣ニ任
ズ 十二月基通攝政ヲ止ラレ左大臣良經攝政ス
後京極ト號ス此人倭歌ニ達シ又詩ヲモ作レリ

三年五月頼家叔父阿野法橋全成駿河國ニテ謀
叛ノ企テリ事アラハレテ殺ル 六月頼家伊豆ニ狩シ
和田胤長ヲシテ伊東崎ノ洞穴ニ入レム穴中ニ大蛇ア
リ胤長斬殺ス伊豆ヨリ駿河へ狩シ仁田忠常ヲシテ富
士入穴ヘ入シム 八月頼家病ニカカリテ已ニ危カリケレ
ハ箱坂ノ關ヨリ東二十八箇國ヲ以テ其子一幡ニ
讓ル箱坂ヨリ西三十八箇國ヲ以テ弟實朝ニ讓

ハ一幡ハ比企能貞カ外孫ナリ。能貞已一人ニテ權柄
ヲ執ラント思此遺言ライキドヲリテ。密ニ實朝及北
條一族ヲ亡サント謀ル。九月能貞密ニ頼家へ申シ
北條カ一門ヲ亡シ。一幡一人ヲシテ心安ク家督ヲ繼
シメント謀ル。政子障子ヲハダテ此ヲ聞テ驚テ時政
ニ語ル時政佛事ニカコツケテ。能貞ヲマ子キヨセ天
野遠景。仁田忠常ヲシテ。能貞ヲ殺シ。能貞カ子。宗
朝并ニ其一族等。一幡ノ館小御所へ引籠ル。時政政子
ノ命ト稱シ義時泰時畠山重忠。和田義盛等ノ軍
兵ヲ遣シ攻ケレバ。彼一族火ヲ放テ焼死ス。一幡モ同
所ニテ焼死ス。其同類皆殺ル。頼家大ニ怒テ。和田義
盛。仁田忠常等ニ命ノ。時政ヲ討シ。義盛シタカハズ

シテ却テ時政ニ出忠常ハ猶豫ノ内ニ誅セラレスカリ
ケレバ。政子ノカラレニテ。頼家髪ヲソリテ執事居ス。正
治元年ヨリ以來。治世ワツタニ五年ナリ。時政等實
朝ヲ取立主君トス。頼朝以來ノ家人等。皆本領ヲ
安堵ス。時政カ妻。牧御方。政子ノ繼母。此テ
ニ實朝ヲモ害セントスル志アリトイヘトモ。義時等ガ
介抱ニヨリテ事不成。其後勅書鎌倉へ遣サレ。實朝
從五位下ニ叙レ。征夷大將軍ニ任ス。時政執權彌威
ヲ振フ。十月實朝元服。歳十二武藏守源義信加
冠タリ。時政理髮タリ。政所吉書始アリテ。始テ甲
冑ヲ著シ。乘馬等ノ儀アリ。頼家ヲハ伊豆ノ修禪
寺へ流ス。十一月實朝ノ使者和田常盛。落神

五代一覽五

馬ヲ石清水八幡宮へ獻ズ 十二月上皇倭歌所
ニテ藤原俊成入道釋阿ガ九十ノ賀ヲ行ハル倭歌
ノ家ノ眉目ナリ明年釋阿卒ス

元久元年正月實朝讀書始孝經ヲ用ラル中原仲
業侍讀タリ太刀砂金ヲ賜ル 二月上皇天王寺
へ御幸 三月實朝右少將ニ任ス 四月平家ノ餘黨
富田基度三浦盛時等伊勢國ニ謀叛シ伊賀伊
勢ヲ攻取ル京都ノ守護武藏守源朝雅兵ヲ催シ
基度盛時等ヲ攻殺シテ其同類ヲ亡ス朝雅ハ時政
ガ壻ナリコトニ其妻ハ牧御方ガ腹ナルニヨリテスコ
フル威ヲ振ヘリ 七月實朝時政人ヲ遣シ伊豆ノ
修禪寺ノ湯殿ニテ頼家ヲ弑ス歳二十二頼家ノ

近臣等謀叛セントハカル北條相模守義時武士ヲシテ
伐平シム 十月鎌倉ヨリ北條政範結城朝光畠山
重保等上洛シ坊門大納言藤原信清カ娘ヲ迎テ
實朝ノ御臺所トス 十二月關東へ下向政範ハ在
京ノ内ニ病死ス 同月頼實太政大臣ヲ辞ス攝政
良經太政大臣ニ任ス近衛右大臣家實左大臣ニ任ス
内大臣隆忠右大臣ニ任ス 同月上皇和歌ヲ詠シテ
石清水賀茂住吉ニ納ム各三十首ツナリ
二年正月主上元服時二十一歳 同日實朝止五
位下右中將ニ任シ加賀公ヲ兼ル 三月京都畿内
大風吹ク是ハ僧榮西始テ禪宗ヲ開ケルタリナリ
ト沙汰アリケレバ榮西ヲ追ハラフベキヨリ勅セラル

トイヘドモ。又赦免セラレテ歸洛。六月時政其妻牧御方カ讒ニテ。畠山重保ヲ殺ス。重保ハ重忠ガ子ナリ。去年實朝御臺所ノ迎ニ重保上洛。時政京都守護源朝雅ト口論シ。朝雅ヲ辱シ。重忠ハ時政前腹ノ婿ナリ。朝雅ハ時政カ當腹。愛婿ナルニヨリテ。牧御方ヨリ、重忠父子逆心アル由ヲ時政ニ讒ス。重忠カ從弟稚毛、重成ト云者アリ。此モ時政前腹ノ婿ナリ。重忠重成不和ナリケレバ。重成モ牧御方ト心ヲ合セテ。重忠父子ヲ滅サント謀ル。義時并ニ其弟時房様ト讒トモ。時政老耄シケルニヤ。後妻ノ言ニ感ケルニヤ。遂ニ重保ヲ殺ス。重忠ハ此時武藏ニ居ル。鎌倉ヘ召寄せ。義時等ニ大軍ヲソヘテ。一俣川ニテ重忠ヲ待ウケテ合戦シ。重忠討

死ス。重成モ重忠カ一族ナルニヨリテ。其密謀ヘリトハ人シラスシテ。此亂ニ同討殺ス。七月實朝時政ガ宅ニアリケレバ。牧御方ヒソカニ時政ヲ勸テ。實朝ヲ害シ。其婿朝雅モ源氏ノ一族ナレバ。取立テ將軍トセントス。政子此ヲ聞テ。實朝ヲ迎テ。義時ガ宅ヘ入シム。在鎌倉ノ武士。皆義時カ宅ヲ守護ス。時政センカタナク。剃髮シ。伊豆ノ北條ヘ蟄居ス。或説ニ。時政浴室ヲ構ヘ。實朝ヲ招ク。已ニ浴ニ入ントシケル時。義時來テ抱止テ入シメス。イカニト問ヘバ。シカクト申ス。實朝驚テ。サラハ時政ヲ討ト命ゼラル。義時ハヤ討候ト申シニ。時政ヲモ牧御方ヲモ。伊豆ヘ遷スト云リ。此ヨリ義時執權。其威時政ニ超タリ。在京ノ武士ニ命

ノ朝雅ヲ誅ス。八月、宇都宮頼綱謀叛ノ聞ヘアリケレバ、義時ト山朝政ヲシテ攻シム。頼綱髮ヲ剃テ陳謝ス。九月、藤原定家新古今集ヲ實朝ヘ贈ル。實朝後歌ヲ好ムニヨリテナリ。十一月、大納言藤原實宗内大臣ニ任ス。十二月、政子ハカラヒニテ、頼家ノ子善哉ヲ、鶴岳別當尊曉ガ弟子トス。其後實朝ノ養子トナル善哉出家ノ公曉ト号ス。

建永元年二月、實朝從四位下ニ叙ス。三月上皇攝政、良經ノ館ヘ御幸セシメス。其前ノ夜人アリ、良經ノ寢所ヘ入テ、天井ヨリ槍ヲ以テ、良經ヲ突殺ス。歳三十八。何人ノ所爲ト云フラシラス。尤イブカシ。近衛左大臣家實攝政、藤原實宗内大臣ヲ辭ス。大納言藤

原忠經内大臣トナル。十二月、家實攝政ヲ止テ、關白トナル。

兼元元年正月、實朝從四位上ニ叙ス。北條時房武藏守ニ任ス。二月、右大臣隆忠左大臣ニ轉、内大臣忠經右大臣ニ任ジ。大納言藤原道經内大臣トナル。同月、僧源空ヲ讚岐國ヘ流ス。源空、法然房ト号シ、黒谷ニ居テ、始テ浄土宗ヲ弘ム。其門徒甚多シ。上皇ノ宮女戒ヲ受テ、尼トナル者アリ。上皇怒ニ、法然ヲ流シ、其弟子安樂住蓮ヲ打斬。四月、九條前關白太政大臣藤原兼實薨、歳六十。一月、輪殿ト号ス。二年二月、實朝疱瘡。六月、上皇熊野御幸。七月、内大臣道經右大臣ニ任ス。大納言藤原良輔内大

臣ニ任ス 九月熊谷直實法師黒谷ニテ死ス 十月
政子上洛熊野へ参詣 十二月鎌倉へ歸 同月實
朝正四位下ニ叙ス

三年三月道經右大臣ヲ辭ス 四月内大臣良輔右大
臣ニ遷リ大納言藤原公繼内大臣トナル實朝從二位
ニ叙ス 五月右中將ニ再任ス 七月實朝倭歌ヲ詠
テ藤原定家ニ贈批點ヲ求メ定家口傳ノ秘記ヲ實朝
へ贈ル

四年五月上皇熊野御幸 七月上皇北面侍秀康ヲ
上總國司トス 八月春日行幸 九月慧星見長廿三
尺餘 十一月主上十六歲何ノ故モナク上皇ノハカ
ラヒニテ位ヲ御弟守成ニ讓ル 年号正治二年

建仁三年元久二年建永一年兼元四年在位合テ
十二年

八十四代

順德院 後鳥羽院第三子諱八守成母八修明門院藤

原ノ重子贈左大臣範季ガ娘ナリ後鳥羽院ノ寵
愛ニヨリテ正治二年四月東宮ニ立ラル兼元二年十
月元服シタマヒ 同四年十一月御兄土御門院ノ
讓ヲ受テ即位時二十四歳ナリ近衛左大臣家實
関白元ノゴトニ此時ニ後鳥羽院ヲ一院トモ本院トモ
申テ政務ヲシロシメス土御門院ヲバ新院ト申テ
何事ニモカマハス

建曆元年正月源實朝正二位ニ叙シ美作權守ヲ

兼ラル 二月僧俊祐。宋朝ヨリ歸ル。泉涌寺ノ開
山ニテ。初テ律宗ヲ弘ム。七月實朝貞觀政要ヲ
讀ム。九月藤原定家從二位ニ叙シ侍從ニ任ス
十月鴨長明鎌倉ニ赴キ實朝謁ス。賴朝ノ墓ヘ參
テ詠歌ス。同月藤原隆忠左大臣ヲ辭ス。右大臣
藤原良輔左ニ轉シ。内大臣藤原公繼右大臣ニ任シ
坊門大納言藤原信清内大臣ニ任ス。信清公實朝ノ舅
ナリ。十二月式部大輔菅原爲長從二位ニ叙ス。是菅
丞相ノ子孫ニテ。當時ノ學匠ナリ。

二年正月黒谷注。然房源空死ス。去年赦ニ逢テ歸
京セリ。四月實朝大慈寺ヲ造ル。六月藤原信清
内大臣ヲ辭ス。大納言藤原道家内大臣トナル。道家公。

月輪相國兼實ノ孫。後京極攝政良經ノ子ナリ。同月ニ
實朝ニ勅シテ閑院ノ皇居ヲ造ム。十二月實朝從二位ニ叙
建保元年正月元日鎌倉地震。同月實朝宮根三
嶋ニ參詣ス。賴朝ノ時ヨリ。二所ノ參詣トテ。度々アル
コトナリ。二月泉小次郎親平ト云者アリ。密ニ賴家
ノ子千壽ヲトリタテ。北條一族ヲ滅ニトハカル同心スル
武士百二十餘人。安念ト云僧廻文ヲ持テ觸ニハリ
ケルヲ。千葉公成胤此ヲ捕テ。義時ニ送ル。拷問シケル
ハ白狀ス。即千親平并其同類ヲ尋ヌ。親平公其討手
ヲウチ殺シテ逃去。其同類ハ皆捕シテ流罪セラル
同月閑院ノ内裏ヲ造ル。賞ニヨリテ。實朝ヲ正二位
ニ叙ス。義時正五位ニ叙ス。三月和田義盛其子義直

義重カ泉親平ニ同意ニケル罪ヲ宥メラレニコトヲ訴
望ム實朝義盛カ舊勞アルコトヲ以テ義直義重ヲ免
ス義盛重テ其一族九十八人ヲ携ヘテ其甥和田平
太胤長カ親平ニ同心セシ罪ヲ宥メニコトヲ請望ム實
朝許容セス義時ニ命ジテ亂長ヲ縛テ一族ノ前ヲ
渡シ奥州ヘ流ス義盛腹立ス義盛又重テ亂長カ屋
敷ヲ賜ニト望ム實朝同心シケルカ忽變改シテ義時ニ
賜ル義盛大ニ怒テ遂ニ謀叛ヲタクム 四月義盛カ
嫡孫朝盛公實朝寵愛ノ近習ノ臣ナリ故ニ義盛カ
逆心ヲナゲキ君父ノ恩義共ニステガタクシテ即チ
髮ヲ剃テ遁世ス義盛是ヲ追カケテ呼飯ス實朝
使者ヲ以テ義盛ヲナタメラル義盛君ニライテ怨

十ニ義時カ恣ナルヲ訴申サント答ゴフ 五月二日義
盛其一族并同類ノ輩ヲ催シ實朝ノ館ヲ襲ヒ義
時カ宅ヲ攻ムニ浦義村公義盛カ從弟ナレトモ引
分テ幕府ヘ赴ク義盛カニ男朝夷名義秀生年
三十八勇力無双ノ者ニ門ヲ破リ庭ヘ亂入ル幕府
ノ士コレニ逢テ打殺サル者甚多シ幕府ニ火ヲ放ケレ
ハ實朝ハ火ヲ避ケ法華堂ヘ赴ル義時廣元相從此
門ニ北條泰時其弟朝時足利義氏ニ浦義村波多
野忠綱武田信光等カラ竭シテ防戦ス二日義盛カ方
ヘ横山時兼馳加ル幕府ヘ千葉公成亂其外近國
ノ軍勢數多馳加リ合戦シケレハ義盛遂打負テ討
レス歳六十七其子常盛四十二歳義直卅七歳義

重三十四歳義信二十八歳秀盛十五歳孫朝盛等
或ハ討シ或ハ逐電ス同類土屋義清岡崎實忠横山
時兼古郡保忠土肥惟平等并梶原ガ餘類或ハ討シ
或ハ逃隠ル朝夷名義秀ハ相殘レル五百人ヲ率テ船
ニ乗テ安房國ヘ赴ク其行未ヲ知ストモ云又落行
ケルサキニテ討レタリトモ云フ或ハ説ニハ對馬ノ國ヘ渡リ
高麗國ヘ赴クトイヘリ其餘ノ徒黨所々ニテ殺サル
胤長モ配所ニテ誅セラル 六月實朝幕府ヲ新
造ス 八月清水寺ト清閑寺ト爭論コトアリ南
都ノ衆徒ハ清水寺ヲ救フ叡山ノ衆徒ハ清閑寺ヲ
救フ檢非違使ニ勅レテ雙方ヲ宥ラル南都ハ從フ
叡山ハ從ハスコレニヨリテ官兵等山僧十餘人ヲ打殺シ

二十人ヲ生虜ル山僧怒テ叡山ス 十一月藤原定
家秘本ノ萬葉集ヲ實朝ニ贈ル
二年二月實朝醉後ホトホリノ疾アリ壽福寺ノ長老
榮西茶ヲ奉ニ其宿酒ノ煩ヲ滌ノク 二月春日行幸
四月叡山ノ僧徒國師寺ヲ燒實朝コレヲ造替
三年正月北條時政伊豆ノ奥山ニテ病死ス歳七十八
六月僧榮西死ス京都建仁寺ニテ死ストモ云又鎌
倉壽福寺ニテ死ストモ云リ 八月九月鎌倉度々大
地震 十月藤原公繼右大臣ヲ辭ス 十二月内大
臣道家右大臣ニ任レテ大納言藤原公房内大臣ト
十九
四年三月坊門前内大臣藤原信清薨ス 六月宋

朝ノ陳和卿來テ。鎌倉ニ赴キ。實朝ニ謁ス。司月實
朝中納言ニ任ス。九月。義時廣元ヲ以テ。實朝年ヲカ
クシテ。官位ニキリニ昇進スルコトヲ諫ル。實朝許容
セス。十一月。實朝渡唐ノ志アリ。陳和卿ニ命ジ。大船
ヲ造シ。明年其船成就シタルニヨリテ。由比浦へ出テ
試ニ漕ケレハ舟重シテ浮コトアタハス。遂ニ朽損シヌ
五年正月。平野大原野へ行幸。六月。阿闍梨。公曉
鶴岳ノ別當ニ補セラレ。十一月。北野松尾行幸。
十二月。北條右京大夫。義時陸奥守ニ任セラル。時房
相摸守ニ遷リ任ス。同月。西園寺。大納言藤原公
經。後鳥羽院ノ勅勅ヲ蒙リ。出仕ヲマシラル。程ナク
知サレ

六年正月。實朝大納言ニ任ス。二月。平政子ハ洛能
野參詣時房從ノ。三月。實朝所望ニヨリテ。左大將
ヲ兼シメラル。其郎從足立景盛出羽守ニ任セラ
レ。秋田城。又ト号ス。同月。實朝左馬寮御監ヲ
兼任セラレ。勅使少外記中原重繼。鎌倉へ遣ハシ。宣
旨ヲ授ク。實朝喜テ。勅使ニ馬ニ疋。砂金白兩ヲアタ
ス。北條泰時讚岐守ニ任セラレ。泰時辭退ス。四月。
平政子鎌倉へ歸ル。在京ノ間。從三位ニ叙セラレ。後鳥
羽院ノ上皇政子ニ對面アルベトテ。召ケレドモ。辨シテ
院參セス。六月。實朝拜賀ノ夕。鶴岳へ參宮。其車
等ノ調度。勅使内藏頭忠綱。後鳥羽。上皇ノ御ヲ
受テ持來リ。又扈從ノ雲客數輩。并隨身等モ。京

都ヨリ鎌倉へ遣サル 七月實朝侍所司五人ヲ定ラ
ル。泰時其隨一タリ 八月。中殿倭歌ノ御會アリ
十月三條内大臣藤原公房太政大臣ニ任ス實朝
内大臣ニ任ス左大將如元平政子ニ從 一位ヲ授ラ
ル。二位禪尼ト號ス 十一月左大臣藤原良輔薨ス
後京極長經ノ弟ナリ 十二月右大臣藤原道家
左大臣ニ任ス實朝右大臣ニ任ス大納言藤原家道内
大臣ニ任ス後鳥羽上皇ノ例ニ任ス大臣拜賀ノ諸具ヲ
實朝ニタメソル坊門大納言藤原忠清子信清西園寺
中納言藤原實氏 公經子 參議藤原國通並并雲客
數輩扈從ノタメニ鎌倉へ赴ク 實朝大臣拜賀ノ爲ニ
兼久元年正月二十七日夜實朝大臣拜賀ノ爲ニ

鶴岳へ泰宮其出ル時ニソミテ廣元入道覺阿泰元
束帶ノ下ニ腹巻ヲ著セラルヘシト申ス實朝許容セ
ス其行列次第嚴重ナリ前驅隨身公卿殿上人扈
從ニ隨兵十騎アリ義時御劔ノ役タリシカ俄ニ違例
ニテ劔ヲ文章博士仲章ニユツリテ飯ハ實朝神拜
畢テ退出ノ時石階ノ邊ニテ當宮ノ別當公曉詐ハ
女ノ形ノ子ヲシウカヒテ刀ヲ拔テ實朝ノ頭ヲ
切テ父ノ仇ヲ復フト呼リ又一刀ニテ仲章ヲ打切ル
コレハ兼テ義時カ劔ノ役タルコトヲ聞及テ其俄ニ
飯ハコトヲシラス夜中ユヘ其面ヲ見分ス義時ヲ斬
ト思テ誤テ仲章ヲ斬殺セリ供奉ノ武士等六ニ
トモ俄ノコトナレハ惘然タリ公曉ハ雪下ノ坊ニカク

レテニ浦義村ヲ頼三將軍タラシコトヲ望ム義村
急義時ニ告ク即長尾定景ヲ遣シテ公曉ヲ誅ス
實朝ハ建仁二年ヨリ將軍ニ任シ今年ニテ治世十
七年薨スル時二十八歳頼朝頼家實朝ヲ二代將
軍ト号ス其間合ニ四十年ナリ公曉ハ四歳ニテ
父頼家ニヲクシテ今歲十九ナリ 二月平政子義
時相談ニテ信濃守行光ヲ上洛セシメ後鳥羽上
皇ノ御子六條宮雅成冷泉宮頼仁二人ノ内ヲ鎌
倉ノ主君トセント望ム上皇許容セス 三月内大
臣藤原家通右大臣ニ任ス父我大納言源通光内
大臣ニ任ス 六月政子義時カ所望ニヨリ左大臣
藤原道家ノ二男頼經ヲ鎌倉ヘ遣サル相模守北

條時房上洛シ頼經ヲ具シテ鎌倉ヘ赴テ主君ト仰
テ武臣皆拜趨ス頼經纔一二歳ナレバ政子各代ト
シテ政ヲキク天下ノ事大小トナク皆義時カハカ
ラヒナリ頼朝ノ妹中納言能保ニ嫁シテ其ウメ
ル娘後京極良經ニ嫁シテ道家ヲ生リ道家西
園寺公經ノ娘ヲ娶テ頼經ヲウメリ此由緒ニヨリ
少シ頼朝ノユカリナリトテ頼經ヲ迎ヘタリトキコ
ユ此ヨシニヨリテ西園寺北條ト相睦ニ此比駿
河國ニ阿野冠者時元ト云ル者ナリ頼朝ノ姪ニテ
全成ノ子ナルニヨリテ關東ノ主タラントノ志アリ
ルヨシキコヘケレバ義時武士ヲ遣シテ時元ヲ殺ス
七月六内ノ守護源頼茂後鳥羽ノ上皇ノ勅勘ヲ

業ル官兵ヲ遣シ追捕セラル。頼茂仁壽殿ニ馳入。
火ヲ放テ自害。朝廷ノ重寶多ク灰燼トナル。頼茂
ハ頼政カ孫ナリ。同月鎌倉ニ小侍所ヲ置義時カ
三男重時ヲ別當トス。九月鎌倉二位尼平政子
伊賀光宗ヲ以テ政所ノ執事トス。光宗ハ義時カ妻
ノ弟ナリ。光宗カ兄伊賀判官光季ハ京都ノ守護
タリ。兄弟共ニ威ヲ都鄙ニ振ヘリ。
二年正月。右清水賀茂ヘ行幸。今年鎌倉數度火災
地震風雨武士ノ家皆崩レ倒ル。
三年三月。参議藤原雅經卒。是飛鳥井ノ祖ニテ。
倭歌蹴鞠ノ家ナリ。四月。後鳥羽上皇鎌倉ヲ滅
サント思カロ立コトアリ。上皇在位ノ時ヨリ常ニ武家

權ヲ執テ。王威ノ衰ルヲ憤リ。位ヲ讓テ後倭歌
管絃ノ暇ニハ武藝ヲ專ニ習ハセ。院中ニ北面ノ者ノ外
ニ西面ノ侍ヲ置テ武士ヲ召アツム。實朝薨レテ後
義時其家臣トシテ。天下ヲホシヒニニスルヲ怒リタ
コフトコロニ。信濃國ノ土。仁科盛遠ト云モノ院ノ西
面ニ召レケレバ。義時其領地ヲ没収ス。上皇攝州倉
橋庄ヲ白拍子龜菊ニ賜フ。其地頭龜菊ヲアサトル
義時ニ仰セテ。其地頭ヲ改易セシム。義時從ヒ奉ラス。
上皇彌逆鱗アリテ。其比在京シケル武士ニ浦胤
義ガ許ヘ北面藤原秀康ヲ遣シ。義時追討ノ事
ヲ議セラル。胤義同心スコレニヨリテ密ニ軍兵ヲ召
アツメラル。土御門院ハ此事無用ノ由諫ラル。主上ハ

同心シタマフ 同月主上位ヲ御子懷成ニ讓ル時四
歳関白藤原家實ヲヤヘテ。左大臣道家攝政ス。此
時後鳥羽院ヲ一院トモ本院トモ申シ。土御門ヲ中院
ト申シ。順德ヲ新院ト申ス。本院新院心ヲ一ツニシテ。
義時追討ノ事ヲ議セラル。五月後鳥羽院高陽
院ニ遷御アリテ西園寺右大將藤原公經并其子
中納言實氏ヲ召テ弓場殿ニ押籠ラレ。此父子。義時
ト親キニヨリテナリ。伊賀判官光季ヲ召ケレトモ叅
ニス。胤義秀康佐々木廣細大江親廣等在京ノ
武士ヲ遣シ攻ラレケレ。光季防戰テ自害コニテ
テ中納言藤原光親奉テ。院宣ヲ書テ。五畿七
道へ義時討へキノ旨ヲ觸遣サル。関東へハ押松ト云

者御使タリ。胤義私ニ使者ヲ以テ。其兄三浦み義
村ガ許へ義時討へキ由ヲ申ソカハス。義村同心セズ。
胤義カ状ヲ義時ニ示ス。押松モ尋出サレテ捕ラル。
即千二位禪尼ノ前ニテ。義時并廣元善信評議シ。
京都へ軍兵ヲ指遣ス。武藏守泰時相模守時房并
足利義氏。三浦義村等十萬騎東海道ヨリ上ル。武田
小笠原。小山結城五萬騎ニテ。東山道ヨリ上ル。義時
ガ次男朝時等四萬騎ニテ。北陸道ヨリ上ル。
六月泰時時房路次ノ官軍ヲ破リ。義濃尾張ニ到ル。
官軍ヲ分テ。宇治勢多所々へ遣シ防ガル。トイヘトモ。
東兵強シテ。泰時ハ宇治ヨリ入洛シ。時房ハ勢多ヨリ
攻入ケレ。胤義并官軍ニ從ル武士佐々木廣細以下。

或ハ討シ或ハ自害或ハ生捕シテ殺サル光親并ニ大納言藤原忠信中納言藤原有雅藤原宗行以下近習ノ廷臣捕シテ関東へ下向路次ニテ殺サル忠信ハカハ。實朝ノ縁者タルニヨリテ赦サル泰時時房六波羅ノ齋ニ居テ賞罰ヲ沙汰ス。是兩六波羅ノ初ナリ。七月新帝懷成位ヲスヘリテ。九條院へシリゾカル。同月泰時カ嫡子時氏奉行ニテ。後鳥羽院ハ隱岐國へ遷サレタマフ。順德院ヲハ佐渡國へ遷シ奉ル。後鳥羽院ノ御子雅成親王ハ但馬ノ國へ流サレ。頼仁親王備前ノ國へ流サル。土御門院ハ今度ノ事ヲ諫メラレシカ。其一ノ都一置申ヘキト沙汰アリシカトモ。是モ土佐ノ國へ遷シ奉ル。年ヲ經テ阿波國へ遷シ幸セラル。順德院ノ年号。建曆二年。建保六年。兼久三年。合テ在位十一年。懷成ハ讓リヲウケフルトイヘドモイマダ即位ノ義式行レズ。纒三月アマリニテ。位ヲスヘルユヘ九條ノ廢帝ト号シテ。王代ノ數ニ入ス。

八十五代

後堀河院 諱ハ茂仁高倉院ノ孫守貞親王ノ子ナリ。守貞ハ後鳥羽ノ兄ナレドモ。後白河ノ心ニ叶ハサルニヨリテ帝位ニツカス。持明院ノ宮トテ。年月ヲ送ラル。兼久ノ亂後。義時ガハカラヒニテ。兼久三年七月。茂仁ヲ即位セシム。母ハ藤原陳子。中納言基家ガ娘ナリ。此帝即位ノ時纒十歳也。故ニ父守貞ニ太上天皇ノ尊号ヲ奉テ。政ヲキカシム。攝政道家ハ鎌倉ノ頼經ノ

父ナレトモ順徳院ノ舅ナルニヨリテ是ヲ改メ近衛家
實攝政トナル何事モ皆義時カ、也。泰時時房京
都ヲ守護ス。同年冬右大臣藤原家通左大臣三轉
シ德大寺ノ公繼再右大臣ニ任シ西園寺公經内大臣
ニ任ス。攝政家實太政大臣ニ任ス。
貞應元年正月主上元服。二月義時大追物ヲ興
行シ頼經ヲシテ見セシム。四月家實太政大臣ヲ
辞ス。八月西園寺内大臣公經太政大臣ニ任ス其
子中納言實氏右大將ヲ兼タリ。北條ガ執カヲカリ
テ西園寺コレヨリ繁昌ス。同月大納言藤原師經
内大臣トナル。
二年二月二條太政大臣公房ノ娘有子ヲ中宮ト

ス。五月太上天皇守貞崩ス。後高倉院ト謚ス。
十月家實攝政ヲ辞シテ關白トナル。
元仁元年二月高麗國ノ漂船越後國ニ流寄ル其船
中ノ道具ヲ鎌倉ヘ送ル。六月十三日北條義時病
死歳六十一。或說ニハ頓死トモ云。又異說ニハ近習ノワ
カキ者ニ突殺サレタリトモ云リ。
元久二年ヨリ以來執權タル一二十年ニ及ヘリ。此時泰
時在京シケルガ急キ時房ト同道下向ス。義時カ
妻ノ弟伊賀ノ光宗等密ニ三浦義村ヲ語シテ頼
經ヲ押ノケ。泰時ヲ殺シテ。義村カ壻宰相中將藤
原實雅ヲ鎌倉ノ主トシ。義時當腹ノ子政村ヲ執權
トセントカレ二位禪尼ノハカラヒニテ。泰時時房ヲ兩

執權トシ。夜中潜ニ自ラ義村ガ宅ヘ赴テ。義村ヲ
シカリ教訓シ。泰時ト一所ニ居シメ。故宅セシメテ、
ニオヒテ。實雅ヲ飯洛セシメ。遂ニ越前ヘ流ス。義時ガ
妻ヲ伊豆ノ國ヘ流シ。光宗ヲ信濃ヘ流シ。其弟二人
ヲ鎮西ヘ流ス。義村ガハルコトナシ。政村ガ泰時ト兄
弟ノ間替ルコトナシ。藤原行盛ヲ光宗ニ代テ政所
ノ執事トス。尾藤景綱ヲ泰時ガ家令トス。義時遺
跡泰時ハワツカ取テ多。諸弟ニ配分ス。泰時ガ子時氏
ト。時房ガ子時盛ヲ京ヘ遣テ。六波羅ニ居シム。

八月近衛左大臣家通薨ス。家實ノ子ナリ。十二月。
右大臣公繼左ニ轉シ。内大臣師經右大臣トナル。大納
言藤原良平内大臣トナル。師經ハ頼實ガ子ナリ。

良平ハ良經ガ弟ナリ

喜祿元年六月。大河廣元入道覺阿死ス。年八十二。頼
朝ヨリ以來武家政務ノ談合人也。七月。二位禪尼
平政子法名如實逝。去年六十九。實朝薨後政ヲ聽
ユ。俗ニ尼將軍ト号ス。九月。天台座主前大僧正慈
圓寂ス。慈鎮ト謚ス。法性寺関白忠通ノ子ニテ。倭歌ニ
名ヲ得タル僧ナリ。十一月。鎌倉ノ頼經元服時。八歳
泰時輔佐トシテ。心ヲ政道ニツクセリ。十二月。石清水
賀茂行幸。

二年正月。頼經征夷大將軍ニ補テ。正五位下ニ叙シ。右少
將ニ任ス。五月。陸奥國ニテ。禪師公曉ト名乗テ。叛逆ス
ル者アリ。結城朝廣等コレヲ捕テ。誅ス。

安貞元年正月。德大寺左大臣藤原公繼薨。年五十二。二月。関白家實娘長子入内。中宮トナル。前中宮有子ハ退ラシテ。安嘉韶院ト号ス。有子ハ主上ヨリ年ニサリナレトモ。主上ト甚ムツミ。長子ハ今九歳ナルユヘ。主上思フ有子ニ通ゼラルト云トモ。御心ノミナラス。四月。藤原師經右大臣ヲ辞ス。内大臣良平左大臣ニ任ル。大納言藤原教實右大臣ニ任ル。大納言藤原兼經内大臣ニ任ス。教實公前攝政道家カ長子ナリ。兼經公家實ガ子ナリ。六月。春時ガ次男時實高橋某ニ殺サル。年十六。高橋モ生虜テ誅セラル。 二月。近衛家實関白ヲヤメテ前攝政道

家関白トナル。光明峯寺ト号スルユヘ。峯殿トモ云リ。

寛喜元年四月中宮藤長子ヲ退テ。鷹司院ト号シ。関白道家ガ娘樽子入内シテ中宮トナル。其妹全子内侍督トナル。

二年。北條駿河守重時上洛。六波羅ニ居ル。四月。北條修理亮時氏鎌倉ヘ下向。六月。北條時氏病死。年廿八。十二月。故頼家ノ娘號竹御所ヲ頼經ノ御臺所トス。頼經ヨリ年ニサルコト十五歳ナリ。同日。松殿前関白基房薨ス。歳八十六。三年。二月。頼經從四位ニ叙シ。三月。右中將ニ任シ。四月。正四位ニ叙ス。右大臣藤原教實左ニ轉シ。内大臣

兼繼右大臣ニ任之。大納言實氏内大臣トナル
七月。道家関白ヲ其嫡子左大臣教實ニ譲ル。道
家ヲ大殿ト号フ。十月。土御門院阿波國ニテ崩
ス。年三十七。十二月。西園寺太政大臣公經落飾ス
准三宮ノ宣旨ヲ蒙ル

貞永元年正月。參議藤原定家中納言ニ任ス
同月。高雄僧高辨寂ス。明惠上人是也。二月。賴經
從三位ニ叙ス。六月中納言藤原定家ニ勅シテ。新
勅撰倭歌集ヲ撰ム。七月。泰時并時房成敗式
目五十條ヲ定ム。泰時專政道ヲ務メ私ナキユヘ
四海無事ナリ。十一月。諸國饑饉。泰時米九千石
ヲ民ニ畀テ賑救フ。同月。ま上位ヲ太子秀仁ニ

譲ル。太上天皇ノ尊号ヲ蒙ル。年号貞應二年

元仁一年。嘉祿二年。安貞二年。寬喜二年。貞永一年
合在位十一年

八十六代

四條院 諱ハ秀仁。後堀河院ノ太子ナリ。母公深壁門

院藤原ノ尊子。攝政左大臣道家ノ娘ナリ。寬喜三
年二月。誕生。貞永元年十月。讓リヲウケテ即位。時
三二歳。道家ノ嫡子関白教實攝政。後堀河院政ヲ
院中ニテ聽メストイヘトモ。道家外祖タルニヨリテ威
ヲ振ヘリ。攝政教實モ鎌倉ノ將軍賴經モ皆道家
ノ子ナリ。其上教實ノ弟良實實經モ相繼テ昇進
ス。近衛ノ右大臣兼經ハ道家ノ婿ナリ。仁和寺御室

法助叡山ノ座主惠源ニ井寺ノ長吏行昭モ道家ノ子ナリ。仁和寺ハ公皇子ナラスニテ入室スル例コレヲ始トス。西園寺前相國公經ハ道家ノ舅ナリ故ニ朝廷ノ權道家公經ニアリシカレトモ皆北條泰時ガハカラヒナリ

天福元年正月。賴經權中納言ニ任ス。五月。近衛前攝政基通薨ス。歲七十四。普賢寺ト号ス。九月。藻壁門院崩ス。歲二十五。

文曆元年三月。泰時カ嫡孫經時元服。賴經自ラ加冠タリ。五月。九條廢帝崩ス。年十七。八月。後堀河院崩ス。歲二十三。コレヨリ道家公經彌恣ニ事ヲ行ヘリ。十二月。賴經正二位ニ叙ス。

嘉禎元年二月。攝政教實薨ス。歲二十六。公ノ九條殿ハゴノ末ナリ。道家再攝政トナル。四日。禪僧圓爾宋國へ入テ。徑山無準ニ逢テ受法。十月。近衛右大臣兼經。左ニ轉シ。西園寺内大臣實氏。右大臣ニ任シ。大納言藤原良實内大臣ニ任ス。十一月。賴經從二位ニ叙ス。十二月。右清水神人春日ノ神人ヲ傷リ。奈良大衆大ニ起テ。神輿ヲ捧テ上洛。北條重時士卒ヲ遣シテ此ヲ防。又使ヲツカハシテ宥ケレハ。神輿木津河ヨリ歸座。此間ハ道家ヲ始。藤原氏ノ人參内セズ。

二年。北條泰時從五位下ニ叙ス。六月。實氏右大臣ヲ辞ス。良實右大臣トナル。又我大納言源定通

内大臣トナル 七月、賴經正五位ニ叙ス 十月、奈良ノ衆徒公家ヘウラミアリテ蜂起シテ城ヲ搆ス。六波羅ノ重時コレヲスカセトモ同心セス。泰時怒テ興福寺領ヲ押ケル。惡僧退散ス。コレニヨリテ寺領ヲ復ス

三年二月、道家攝政ヲ其督近衛左大臣兼經ニ讓ル 四月、從二位藤原家隆卒ス。歳八十。猶間中納言光隆ガ子ニテ定家ト倭歌ヲ以テ並稱セラル。五月、石清水行幸 八月、賴經新館ヲ六波羅ニ造ル。十一月、西園寺ノ公經北山ノ館ヘ行幸 十二月、源定通内大臣ヲ辞ス 大納言藤原基家内大臣トナル。道家、第十一

曆仁元年正月、賴經上洛。泰時諸國ノ武士ヲ卒テ供奉ス。藤原行光鎌倉ノ留守タリ 二月、賴經京著六波羅ノ館ニ任ス。道家公經、實氏等親類參會。其館ヘ往來。賴經參内右衛門督ヲ兼檢非違使ノ別當ニ任ス 三月、賴經大納言ニ任ス 同日、春日行幸 四月、賴經大納言ヲ辭ス 同月、道家准三三宮、即落飾 六月、賴經春日詣 七月、前左大臣藤原良平太政大臣ニ任ス。右大臣良實左ニ轉シ。三條大納言藤原實親右大臣ニ任ス 大炊御門大納言藤原家嗣内大臣ニ任ス。中納言藤原爲家侍從ヲ兼シ。爲家、定家カ子トリ 同月、賴經石清水參詣 八月、賴經賀茂祇園北野吉田ヘ參詣 十月、松殿前

攝政藤原師家薨ス。同月、賴經鎌倉へ皈ル

延應元年正月、太政大臣良平落飾。歳五十六。二

月、後鳥羽院、隱岐國ニテ崩ス。歳六十。

仁治元年二月、勅使大納言藤原公相伊勢へ參宮

公相公經ノ孫實氏ノ子ナリ。九月、三條實親右

大臣ヲ辭ス。十月、大炊御門家嗣内大臣ヲ辭ス。

大納言實經右大臣ニ任レ、衣笠大納言藤原家良内

大臣ニ任ス。家良ハ近衛ヨリワカレタル家ナリ。十一

月、賴經武士ニ命ジテ、京都鎌倉簀ヲ焼シ。辻々ノ警

固セシム。十二月、攝政兼經、太政大臣トナル。今年、

北條時房卒ス。歳六十六。二年正月、主上元服。歳十。攝政兼經加冠タリ。左大

臣良實、理髮タリ。八月、藤原定家卒。歳八十一。

十二月、道家孫故攝政教實娘彦子、九歳ニテ女御

トナル。道家彌威ヲ振ス。今年、僧圓爾宋ヨリ歸朝

三年正月、主上崩ス。年十一。泉涌寺ニテ葬禮アリ。

此以後帝王此寺ニテ葬ルコト多シ。年號天福一

年。文曆一年。嘉禎三年。曆仁一年。延應一

年。仁治三年。合テ在位十年。

八十七代

後嵯峨院 諱邦仁。土御門院ノ第二子也。母源通

子宰相中將通宗カ娘ナリ。承久ノ亂ニワヅカニ歳十

リシヲ。土御門大納言源通方外戚ノ親ニアルニヨ

リテ、養育シ奉ル。十八歳ノ時、通方卒スル故ニ祖母

承明門院ノ許ニウツリカスカナル體ニテヲハレマス。
仁治三年正月四條院崩レテ御子モナク御連枝
モナケバ誰カ繼體ノ君タルヘキト沙汰アリ。順德
院此時佐渡國ニ上テ急ナクヲハレシ。其御子忠成京ニ
テレクテ藤原道家ノ外孫ナレハ是ヲ位ニツケ申道
家相替ラス朝廷ヲ我トニセシト思ヒ關東へ談セラル
泰時承引セズ秋田城ニ義景ヲ使ヒテ上洛セシメ土
御明院ノ御子ヲ御位ニ即申ヘシト云含ム義景若某
京著以前ニ順德院ノ御子即位レタマハ如何スヘキト
云泰時聞テ汝ヲ遣スウヘ公何ノ憚カアルヘキ惟テ口
ニテ土御門院ノ御子ヲ即位セシムヘシト云承久ニ土
御門院公義時追討ノ事ヲ諫申サル故ナルヘシ義景急

入洛ニ承明門院ノ御所へ參テ泰時カ申ス旨ヲ申ス
順德院ノ母脩明門院石道家石大ニ驚クサレテ泰時
カ下知ニテ義景申ウヘ公異儀ニ及ス。同月二十日邦
仁元服年二十三。左大臣藤原良實加冠タリ左中
辨定嗣理髪タリ。二月政始アリ三月御即位良實
關白トナル道家ノ二男ニテ。二條殿是ヨリ始ル。六月
西園寺右大臣實氏娘姑子入内女御トナル歳十八。
同月十五日北條武藏守泰時卒ス。歳六十。元仁元
年ヨリ今年ニテ執權十九年政道私ナク正路ニ沙
汰シケルユヘ公家武家コレニ倚賴シテ天下無事ナリ。
嫡孫左近將監經時其跡ヲ續テ將軍賴經ノ執權
タリ。八月女御姑子中宮トナル。九月順德院佐

渡ニテ崩ス四十六 十月御母通子ニ皇后ノ位ヲ贈
ラレ外祖通宗ニ左大臣從一位ヲ贈ラレ 十二月近
衛前攝政家實薨ス年六十四

寛元元年六月。中宮皇子誕生。七夜ノ間ノ儀式最
嚴重ナリ。即太子ニ立ラル。西園寺實氏外祖ノ勢ヲ
得テ道家良實父子ト共ニ朝政ヲ執リ。廷臣ノ顯達
ナルモ大方此二人ノ好ニナリ。實氏ノ父公經入道モ
猶存生ニテ。北山ノ山莊ニ山ヲツキサシクノ木石ヲア
ツメ池ヲホリ亭ヲ立ニ遊慰メリ。又西園寺ノ御堂ヲ
建テ傍ニ寺院ヲツクリナラフ。道長公ノ法成寺ノ御
堂ニモ推ナラヒテ。其景氣ハ猶一ナレリ。主上同腹ノ兄
圓滿院仁助法親王。生レツキサカレタ主上ト多シケレ

ハ僧中ノ事ヲ一向ニハカラヒ申サルノニナラズ。朝政
ニモタツサハレリ。七月北條經時武藏守ニ任ス。十
月西園寺入道相國公經熊野請次男大納言實雄
嫡孫大納言公相其外大納言爲家等ノ公卿數輩
殿上入三十人ハカリ扈從殆御幸ノ行糺ニトシ
十一月土御門院十三年忌ノ追善ヲ修セラル
十二月朔日石清水行幸關白良實左大將藤原忠
家道家孫右大將藤原實基德大寺騎馬ニテ供奉其
行糺嚴重ナリ。五月加具茂行幸。今年道家東福寺ヲ
建テ圓爾ヲ開山トス。聖一國師是ナリ
二年春鎌 若二天變多シ將軍賴經サシクノ祈念ヲ
行ル 四月賴經ノ子賴嗣六歳ニテ元服加冠理髮共

二經時没之。同月、賴經執奏シテ、征夷大將軍ヲ
賴嗣ニ讓リ、從五位上ニ叙シ、右少將ニ任セラル。賴經ハ
二歳ニテ鎌倉へ下向シ、九歳ニテ將軍ニ任シ、在職十八
年ニテ、賴嗣ニ讓補ス。天變ノ慎ニテ、世ヲ讓ルト云トモ。
實ハ北條威ヲホシヒ、ニセンタメ、幼弱ノ内、公コレヲ
ガメ、成長ニ及テハコレヲレリゾケ。幼主ヲ以テ其代リ
トスルナルヘシ。六月、關白良實左大臣ヲ辭ス。其弟
右大臣實經左ニ轉シ、内大臣藤原兼平、右大臣ト
ナル。大納言忠家内大臣ニ任ス。八月、西園寺、入道
相國公經薨ス。歳七十一。
三年正月、鎌倉ニ客星數度出現。遠江守朝
時死ス。歳五十二。義時ガ次男ナリ。其子孫ヲ

名越ト號ス。七月、賴經落飾ス。同月、北條
經時ガ妹檜皮姫ヲ、賴嗣ノ室トス。賴嗣ハ七歳ニテ、姫ハ
十六歳ナリ。
四年正月、主上位ヲ太子久仁ニ讓ル。太上天皇ノ尊号
ヲ奉ラル。年号寛元。在位四年。
八十八代

後深草院 諱久仁。後嵯峨院第二ノ子也。母八中宮藤
原姞子。西園寺實氏カ娘ナリ。寛元元年ニ生シ、同四
年正月即位。時四歳。政務、後嵯峨上皇院中ニ、沙汰
シタマフ。實氏外祖ノ勢ニテ、北條ト交ヲ修シ、權ヲ專
ニセリ。道家モ猶存生ニテ、實氏ト同政ヲ行フ。關白
良實ハ父道家ト不快ニヨリテ職ヲヤメラシ。其弟左大

臣實經攝政ス是ハ一條殿ノ初ナリ 三月實氏太政大臣ニ任ス 同月前參議菅原爲長卒ス歲八十九 同月北條經時病アリテ執權ヲ其弟左近將監時頼ニ讓ル 四月經時落飾 閏四月朔日經時卒ス歲三十三 仁治二年ヨリ執權今在ニテ纔五年ナリ 五月鎌倉騷動ス是ハ北條越後守光時ト云モノアリ義時カ孫朝時ガ子トリ 頼經ニ近習シケルユヘニ時頼ヲ討テ執權タラントハカル 忽チ露頭シ 光時所領沒収セラレ 伊豆ヘ流サル 其黨皆流罪セラレ 光時カ弟時章等ハ異心ナキユヘ名越ノ家ヲ相續スコレヨリ時頼遂ニ天下ノ權ヲ執リテ 將軍頼嗣ヲ扶翼ス 六月頼經營中ヲ出テ 北條時盛カ佐ムノ亭ニ居ル

七月十一日頼經鎌倉ヲ出テ歸洛 二十八日京著シ 六波羅ニ住ス 路次相從フ武士 皆鎌倉ヘ歸ル 三浦光村一人ニキリニ餘波ヲ惜ミ落涙シ 今一度鎌倉ヘ歸レ入ント云テ退出 光村ハ義村カ次男 泰村カ弟ナリ 幼少ヨリ頼經ノ近臣ナリ 頼經上洛ノ事ハ經時ガ時ヨリ沙汰アリト云トモ 光時カ事ニヨリテ 時頼急ニハカラヒケルナルヘシ 三浦泰村ハ累世ノ大名ナリ 其上泰時カ塔ナルニヨリテ 政務ヲ相談セラレ 秋田城ハ義景モ時頼ニシタシキユヘ 泰村ト威ヲ争フ此時北條重時久在京ニ 政事ニ鍛鍊ユヘ 鎌倉ヘ呼下シ 諸事ヲ談スヘシト 時頼申サルト云トモ 泰村然ルハカラスト云ニヨリテ 暫クサシヲク 泰村ハ時頼ニシタシト云ト

毛光村以下ノ一族ハ頼經ヲ慕フ心ヲ分ク。且驕慢ノ
アリ。害心ヲサレハサメリ。十二月實氏太政大臣
ヲ辭ス。前内大臣源通光太政大臣ニ任ス。關白實經
左大臣ヲ辭ス。右大臣藤原兼平左大臣ニ任ス。内大
臣忠家右大臣タリ。大納言實基内大臣トナル將軍
頼嗣從四位下ニ叙ス。少將ハ元ノコトニ
實治元年正月。一條實經政ヲヤメテ近衛兼經又攝
政ス。二月頼嗣時頼大追物ヲ興行ス。四月秋田
城ハ義景カ父。景盛入道覺地年來高野ニアリケルカ
鎌倉へ來テ時頼ニ對談シ。密ニ三浦泰村ヲ滅サシコト
ヲ謀ル。コレニヨリテ鎌倉騷動然トモ泰村カ罪イマダ
アラハレス。五月時頼妹ノ忌アルニヨリテ泰村カ

宅ニ寄宿ス。夜中鑑腹卷ノ聲シケルニヨリテ。潛ニ
本宅へ歸ル。此時光村等逆心ノ企アリト云トモ泰村
コレヲサヘ時頼へ陳謝ス。六月時頼泰村ト和睦シ。擧
詞ヲ遣ス。覺地コレヲ聞テ。今度和平アラハ彼一族彌
驕ルヒトテ。此次テニ勝負ヲ決セヨトテ。義景カ子泰
盛等一族黨類ヲ遣シ泰村ヲ攻メ泰村平和ス。テニ詐
諾ノ上ニヨハイカニト驚テ防戰ス。時頼コレヲ聞テ。ス
テニ歸服シテ。又合戰ヲ起ス。上ハ宥ヘキニアラストテ。北
條實時義時孫實泰實泰子ヲシテ幕府ヲ守シメ。北條時定時頼弟
大將トシテ。三浦ヲ攻シム。合戰半ナル時泰村宅ニ火
ヲ放ケレハ泰村一族ヲ率テ。法華堂へ赴キ。光村等
ヲシテ。レハラク防戰テ。力盡ケレハ泰村光村以下

一族并二其黨類毛利西阿關政泰以下二百七十
餘人。賴朝ノ影前ニ並居ニ自害ス從兵五百餘人皆
死ス其外ノ餘黨ハ皆所々ニテ討レヌ時頼此趣ヲ京
都ニ申遣シ重時ヲ以テ西園寺實氏へ申ス此比道
家ハ前將軍賴經上洛ノ事ニヨリテ密ニ光村ニ約セ
ラル趣アルニヨリテ關東トムツレカラス實氏ハ彌
北條ト交ヲ通セラル故ニ西園寺ノ威清華ニ秀テ
攝家ヲ輕ス 七月北條相模守重時六波羅ヨリ
鎌倉へ歸ル時頼カ招ニヨリテナリ時頼ス十八千諸事
ヲ談シ連署兩執權タリ。重時相模守ヲ改テ陸奥
守ト號シ時頼相模守ト號ス重時カ一男長時ヲ
六波羅ニ居レシ。畿内西國ノ成敗ヲ掌シム

二年正月十七日源通光太政大臣ヲ辭ス翌日薨
ス。歲六十二 十月後嵯峨上皇宇治御幸紅葉ヲ
御覽此時國家ノ大事皆武家沙汰シヌルユ上皇ハ
處々へ御幸遊慰タマフ。主上ハ猶幼マシメハ兒戲ノ
三三ノ月日ヲ送リタマフ

建長元年二月關院内裏炎上 三日洛中過半回
録

二年三月熊野御幸 四月藤原實基内大臣ヲ辭
ス。久我大納言源實實内大臣ニ任ス 五月將軍賴
嗣帝筵ヲ讀清原教隆侍讀タリ。時頼貞觀政要ヲ
寫テ奉ル 十二月源實實内大臣ヲ辭ス大納言
藤原通長内大臣ニ任ス

三年七月、賴嗣從三位、叙左中將、二任ス。時、賴正五位下、二叙ス。閑院内裏造、營ノ賞ナリ。十二月、佐々木氏信、武藤景賴等、行法師ト云モノヲ生捕テ、時、賴ニ獻ス。糺明シケル、前將軍賴經、京都ニテ世ヲ亂シトスル企アリ、コレニヨリテ、其同類ノ關東ニアル者、皆罪ニ行ハシ。

四年二月、時、賴重時、使者ヲ京都へ遣ヒ、後嵯峨上皇ノ一ノ宮、宗尊親王ヲ迎テ、鎌倉ノ主君トセント申ス。同月、光明峯寺前攝政道家薨ス。歳六十一。此人、賴經ノ父ナルニヨリテ、義時、泰時カ代ニ、武家モ重ジケルニ、其威殆帝王ノコトクナリシカ。賴經上洛ノ後、北條ヲ怨ル志アリテ、三浦光村ニモ申合セラル、コトアリ。

トナシサレトモ、賴嗣ノ祖父ナルユヘ、關東ヨリソノ、指置ケルニヤ。今了行カ事アリハル。折節薨セラル、ユヘ疑ナキニアラス。武家ヨリ密ニハカラヒケルニヤ。イフカシ、道家ノ公達并孫忠家、或ハ配流解官セララル。一條、良實公ハカリカワルコトナシ。是ハ道家ト不和ナリケル故ナリ。一條殿ノ家説ニ、公良實、常ニ道家ノ北條ヲ怨テ、世ヲ亂シトノ企アルヲ歎テ、時々諫ラル、ニヨリテ、道家怒テ、父子ムツ、レカラス。時、賴コレヲ知ル、ユヘ何ノ沙汰ニモ及ズ。一、三月、一品中務卿宗尊親王出京。四月、鎌倉ニ到著、征夷大將軍ニ任セラレ、時、十三歳。或ハ十一歳トモ云ル。北條相模守時、賴執權タリ。北條陸奥守重時、連署ス。同月、前將軍藤原賴嗣、職

ヲヤメラレテ歸洛ス。寛元二年ヨリ。建長三年ニテ。
治世八年ナリ。宗尊公親王タルニヨリテ。公卿殿上ニ
三輩近侍レテ。其儀式嚴重前代ニ超タリ。時頼等
ガ崇敬ヲ彌増ナリ。前將軍ノ管ヲ示キテ。新ニ御
所ヲ造テ移レ奉ル。十月。近衛兼經攝政ヲ辭ス
其弟左大臣兼平攝政ス。是鷹司殿ノ始ナリ。是ヨ
リサキ道家ノ長男教實九條殿ヲ相續レ。次男良
實二條殿ト號ス。三男實經一條殿ト號ス。今又近
衛分テ鷹司トナル。是ヨリ五攝家ト稱ス。執柄ノ勢
ノ分ニタメ武家ヨリハカラヒケルニヤ。

五年正月。主上元服。御歳十一ナリ。西園寺ノ一族
外戚ノ勢ニヨリ。北條カ荷擔ユ。官位ホレヒマニ昇進

レ。前相國實氏カ長男大納言公相。其弟大納言公
基ト相並テ左右大將トナリ。遂皆大臣ニ任ス。八
月。越前永平寺開山道元寂ス。是日本ニテ曹洞宗
ヲ弘ル始ナリ。十月。朝觀ノ行幸。此比後嵯峨上
皇ハ鳥羽離宮ニラフレテス。十一月。時頼建長寺ヲ
造テ供養ス。宋朝僧道隆。導師タリ。道隆ヲ蘭溪ト
號ス。大覺禪師是ナリ。日本ハ異國ノ禪僧來朝スルハ
道隆ヲ始トス。

六年十一月。足利左馬頭義氏卒ス。是ハ義家ノ三
男義國カ曾孫ナリ。義國カ子二人。兄ヲ新田義重ト
云。新田ノ祖ナリ。弟ヲ足利義康ト云フ。義康カ子上
總次義兼ハ。頼朝ト稱ニテ。北條ニシタレ。義氏ハ。時

政ガ外孫ナリカタク他ノ武士ニ准ガタキユヘ北條モ
コレヲヲモンス尊氏ハ義氏カ後胤ナリ 十二月宗尊
河内守源親行ヲ召テ源氏物語ヲ談セラル政務ハ
皆時頼カ、ナレバ宗尊ハ倭歌蹴鞠ニテ年月ヲ送
ル

七年三月熊野御幸ニ山檢校覺仁法親王先達タ
リ親王ノ先達タルコト是ヲ如トス

康元元年二月北條陸奥守重時職ヲ辭ス其弟政
村其代トナリ時頼ト連判 四月北條長時六波羅

ノ職ヲ辭ス鎌倉へ歸ル其弟時茂其代トナリ上洛時
二十ニ歳アリ二人ハ皆重時カ子ナリ 八月前將軍

藤原頼經京ニテ逝去年二十九 十月前將軍藤原

頼嗣京ニテ逝去年十八 十一月時頼執權ヲ北條武

藏守長時ニ讓リテ落飾山内ニ退キ道崇ト号ス最
明寺ト稱ス時ニ三十歳同時剃髮ノ者多シ時頼ニ對

シ衷心ナキコトヲアラハスト云トモ自由ノハマラキニ
似タリトテ出仕ヲヤメシム時頼カ子幼少ユヘ長時

ヲ名代トシ政村ト連判セシム然レトモ皆時頼カ
旨ヲウケスト云コトナレ

正嘉元年二月西園寺前相國實氏カ娘中宮ト
ナル主上ノタメニ叔母ナレハ齡モハルカニコエタリ

同月時頼ガ家督時宗七歳ニテ元服宗尊自ラ
加冠タリ長時理髮タリ 二月後嵯峨上皇高野へ

御幸 七月兼明門院崩ス歳八十七土御門院ノ

母ナレハ主上ノ曾祖母ナリ

二年三月將軍宗尊親王來年上洛アルヘキ評定アリテ諸國ノ武士ニ相觸然トモ其事ヤニヌ

正元元年春疫癘飢饉人民多死ス十四五歳ハカリク小尼アリテ京中ノ死人ヲ取食フ月ヲ經テ其行方

レシス 二月主上ノ御母大宮院西園寺花前ニテ一切經供養アリ行幸御幸供養ノ翌日御遊アリ

主上琵琶ヲ彈セラレ 五月近衛前關白兼經薨ス 歳五十 函屋關白ト号ス 十一月主上位ヲ御弟直

仁ニ譲ル今年ワツカ十七ナレ御心ヨリラコラス上皇ノハカラヒナルヘレ年号寶治二年建長七年康元一

年正嘉二年正元一年在位合十三年

八十九代

龜山院 諱ハ恒仁後嵯峨第六ノ子後深草同腹ノ弟

ナリ正嘉二年八月二東宮ニ立テ正元元年十一月即位時十一歳鷹司太政大臣兼平關白タリ後嵯峨

上皇院中ニテ政ヲシロシメス一院ト申ス後深草院ヲハ新院ト申テ富小路ノ御所ニマシス

文應元年一月故近衛兼經公ノ息女鎌倉へ下向最明寺時頼カ養子トナリ宗尊親王ニ嫁ス

七月僧日蓮鎌倉ニ到テ時頼ニ對面ス日蓮其黨多クシテ一宗ヲ開ケリ 十一月西園寺前相國

實氏落飾常盤井入道ト号ス 十二月山階右大臣實雄カ娘入内年十六皇后トナル實雄ハ實

氏方弟ナリ

弘長元年二月西園寺左大臣公相ガ女入内中宮
トナル 三月公相左大臣ヲ辞ス實雄左大臣ト
ナル近衛基平右大臣トナル兼經子ナリ三條公
親内大臣トナル 四月兼平関白ヲ辞ス二條
前左大臣良實再関白トナル 六月故三浦義
村ガ子律師良賢ト云モノ謀叛ヲ企ケルヲ鎌倉
ニテ生捕其同類ヲ尋求ム 十一月前陸奥守入
道北條重時卒歳六十四極樂寺ト号ス是義
時カ三男ナリ其子孫赤橋ト号ス 十二月西園
寺前左府公相太政大臣ニ任ス主上新院ノ外舅ニ
テ北條ノ累世ニタニミアルニヨリテ當時ノ權貴

此一門ニアリ

二年正月三條公親内大臣ヲ辞ス鷹司基忠内大
臣ニ任ス兼平子 七月公相太政大臣ヲ辞ス

十一月二十八日一向宗ノ開山範宴寂ス歳九十一
親鸞是ナリ日野家ノ一族ナリ

三年二月後嵯峨ノ上皇北山ノ龜山殿ニ御座ア
リ主上行幸新院御幸倭歌御會御遊アリ

同月鎌倉ニテ北條政村一日千首倭歌ノ會ヲ興
行ス將軍宗尊倭歌ニ長セルユヘ政村モ政務ノ暇
スキコノニケルニヤ 三月藤原實雄左大臣ヲ辞
ス 八月一條前攝政實經左大臣ニ再任ス先例メ
ツラレキ事ナリ 十月將軍宗尊上洛ノ沙汰ア

リレカ。又故マリテ止ム。十一月二十二日正五位下
相模守北條時頼入道道崇最明寺ニ於テ卒ス。歳
三十七ナリ。宗尊哀傷ノ倭歌ヲ詠セラル。勅使右
少辨經任鎌倉ニ赴テ吊ス。時頼ハ寛元四年ヨリ。
康元元年マテ。執權十一年。落飾ノ後七年。合テ八
年。政道正ニヨリテ。天下無爲ナリ。俗説時頼剃髮
ノ後。潜ニ鎌倉ヲ出テ。微服ニ諸國ヲ巡檢シ。國守ノ
善悪。人民ノ艱苦ヲ窺見ト云リ。サレドモ東鑑ニハ見
ヘ侍ラス。サリナガラ其間東鑑年月不足ノトコロア
レバ。若其内ニモヤアリケン。又使者ヲツカハシ。國々ノ
事ヲウカヒケルニヤ。イブカシ。北條八代ノ政。泰時時
頼ヲサカンナリトス。時頼ガ長男式部丞時輔。京都

ニ居シメ。北條時茂ト。兩六波羅タリ。次男左馬頭時
宗十三歳。家督ヲ繼テ執權タリ。相模守ニ任ス。政
村長時コレヲ輔翼ス。時宗ガ舅秋田城。父泰盛モ權
勢アリ

文永元年三月。延曆寺炎上。是ハ天王寺別當ヲ。三
井寺ニ付ラル。コトヲ憤テ。山僧手ツカラ焼ケルトツ
五月。山門ヨリ三井寺へ押寄テ。悉焼拂フ。又同年南
都ノ大衆モ朝家ヲウラムルコト有テ。神木ヲ入洛セ
シメ。嗾訴ニ及ビケリ。八月。北條長時死ス。歳三十五
二年四月。一條良實関白ヲ辞ス。一條左大臣實經
関白トナル。十月。實經左大臣ヲ辞ス。近衛右府基
平左轉シ。鷹司内府基忠右大臣ニ任シ。大炊御門

冬忠内府ニ任ス

三年四月。蓮花王院造替供養行ハル。主上行幸。一院新院御幸。百官供奉儀式嚴重ナリ。六月。將軍宗尊倭歌ノ會ニ事ヨセ。近習ノ者ヲアツス。密ニ北條時宗ヲ討テ。自ラ天下ヲ領セントノ謀ヲメグラシ。病氣ノ由ニテ。松殿僧正良基ヲ驗者トシ。常ニ近侍ス。事ヤ、アラスレケレハ。良基逐電ニ。高野山ニ入テ。斷食シテ死ス。七月。時宗政村并北條實時。秋田城々泰盛相談シ。宗尊ヲ廢セニコトヲ議ス。鎌倉騷動ス。北條中務教時ハ。宗尊ニ心ヲ寄レカドモ。時宗ヨリ制レケレバ止ヌ。宗尊遂ニ職ヲ止ラレテ歸洛。後嵯峨ノ上皇。シバラクハ對面セラレズ。中御門左

少辨經任ヲ。関東へ遣シ謝シラル。武家別義ナキニヨリテ。世ノ中無事ニナリヌ。宗尊ハ。建長四年ヨリ今年マテ。在位十五年ナリ。サテ鎌倉ニハ。時宗政村カハカラヒニテ。宗尊ノ子ニ惟康トテ。僅ニ三歳ナリシヲ。取立テ主君トス。同月。惟康征夷大將軍ニ任シ。從四品ニ叙ス。

四年正月。冬忠内大臣ヲ辞ス。関白實經カ子家經内大臣ニ任ス。十月。後嵯峨上皇春日御幸。宸筆唯識論ノ供養アリ。同月。西園寺前相國公相薨ス。歳四十五。父入道相國實氏ハ猶存生ナリ。十二月。一條實經関白ヲ辞ス。近衛左府基平關白トナル。今年禪僧紹明宋ヨリ歸ル。紹明ヲ南浦

ト号ス其弟子ヲ宗峯ト云。紫野大徳寺ノ開山ナリ。
此比異朝ニ蒙古國北狄ヨリ起テ中華ヲシタガヘ大
元國ト号シ。高麗國へ使者ヲ遣シ其ヨリ案内
者ヲ得テ日本へモ書簡ヲ贈リ。蒙古へ貢物ヲサ
クヘキ由申スト云トモ。高麗王日本へハ道路甚遠
シテ。急ニ通ジカタシト云ニヨリテ。使者空ク歸ル

五年十月。近衛關白基平薨ス。歳二十三。十二月。
鷹司ノ左大臣基忠關白トナル。同月。新院ノ富
小路ノ御所ニテ。一院五十ノ御賀アリ。舞樂御覽セ
ラル。此比一院ハ御落飾アリテ。法皇ト号ス。惣シテ
此比ハ世靜カナルニヨリテ。一院新院洛中洛外御幸
御遊多シ。仙洞ニテ五十ノ御賀アルヘシトテ。其用意

アル所ニ。蒙古國ヨリ日本へ送ル狀。宰府ニテ到著關東
へ送リ。武家ヨリ内裏へ奉ル。菅原宰相長成ニ具返辭
ヲ書シ。世尊寺經朝卿清書ス。シカレトモ武家談合
ニ蒙古ノ書面無禮ナリトテ。返狀ニ及バズ

六年三月。關白基忠左大臣ヲ辞ス。一條家經左大臣
ニ任ズ。花山院内大臣通雅右大臣ニ任ズ。又我大納言源
通成内大臣ニ任ス。六月七日。西園寺入道相國實氏
薨ス。年七十六。主上新院ノ外祖ナリ。十一月。通成内
大臣ヲ辞ス。二條良實ノ子師忠内大臣ニ任ス。此年
蒙古ノ使者高麗ノ船ニ乘テ對馬ノ國ニ到リ。日本ノ塔
二郎彌二郎ト云者ヲ捕テ。蒙古へ歸リ。日本ノ事ヲ
尋問テ。祿物ヲアタヘテ歸ラシム

七年正月北條時茂六波羅ニテ卒ス。歳三十。十月。
二條前關白良實薨ス。歳五十五。福光園院ト號ス。
同月將軍惟康從二位ニ叙シ左中將ニ任シ源姓ヲ賜フ。
此年蒙古ノ使者趙良弼高麗國ヘ到リ日本ヘ通事
ヲ請フ。

八年三月花山院通雅右大臣ヲ辞ス。二條師忠右大臣ニ
任ス。花山院師繼内大臣ニ任ス。九月蒙古ノ使者趙良
弼等筑前今津ニ著テ牒狀ヲ呈ス。公家武家返事ニ
及ズ。良弼筑紫ヨリ空ク歸ル。日本ヨリモ使者彌四郎
ト云者ヲ添テ遣ス。蒙古ノ王彌四郎ニ對面シテモテ十
シテ飯ス。十月北條義宗鎌倉ヨリ上洛シ六波羅ノ
北方ニ居テ南方ニ居ケル時輔ト兩六波羅タリ。義宗

長時カ子ナリ

九年正月惟康從二位ニ叙ス。中將元ノ如シ。二月十五
日鎌倉ヨリ早馬六波羅ノ北方北條義宗ガ許ニ來シ。義
宗即俄ニ南方ヘ押寄。時輔ヲ討ヒス。時宗ガ兄ナレバ。年
來弟ニ家督ヲ取ラレ逆心ノ巧アリケルガ忽アラスレテ。時
輔討レケレ。鎌倉ニモ其同類北條公時北條教時等殺
サル。是レ一月騷動ト申ス。同月十七日後嵯峨法皇崩ス。
歳五十二。讓位ノ後院中ニテ政ヲ聞コト二十歳餘。世モシ
ツカナルニヨリテカクノコトク安樂ニテ終タマフ。此以後ノ皇
統ハ新院後深草ト主上龜山ト御兄弟ノ一流カハルク即位
アルベシト。御遺言アリト云ツタフレド。實ハ北條時宗朝廷ヲ
一流トシテ其勢ヲ分チラサヘンタメニ御一流カハルク治世ア

ルレトハカフロケルトナン

十年五月鷹司基忠關白ヲ辞ス九條忠家關白トナリ
同日北條政村死ス歳六十九義時カ四男ナリ 六月時宗
北條義政ヲレテ執權ノ加判セシム政村カ替ナリゴシ重時
ガ四男ナリ 八月山階前左大臣藤原實雄薨ス歳五十
七主上新院ノ舅ニテ後宇多伏見ノ外祖也且西園寺ノ家
ナルニヨリ威ヲ當世ニフルリ 此年蒙古ノ使者趙良弼
來朝ス都ヘモ鎌倉ヘモ入テレス大宰府ヨリ追返サレ
十一年正月主上二十六歳ニテ位ヲ御子世仁ニ讓ル
年號文應二年弘長二年文永十一年在位合十五年
九十年代

後宇多院

諱世仁龜山ノ太子ナリ母ハ左大臣藤原實

雄ガ娘姞子ナリ後京極ノ女院ト号ス

文永四年十二月誕生同十一年正月受禪 二月即位

時八歳九條關白忠家攝政ス此時後深草ヲ本院ト

云龜山ヲ新院ト申ス二月西園寺前右府公基薨ス年

五十五 同月德大寺前相國實基薨ス 歳七十二

三月蒙古ノ大將二人大船三百艘舟船二百艘小船三

百艘ヲ率テ日本ヲ攻シタメ出陣數度使者者牒狀ヲ

贈ルト云トモ日本ヨリ返事ナキ故也コトヨリテ内

裏ニハ諸社ヘ祈念セラル關東ヨリ筑紫ヘ下知レテ武

備ヲコタルコトナレ 六月忠家攝政ヲツメラレテ一

條左大臣家經攝政ス 七日前將軍宗尊親王京

都ニテ薨ス歳三十三 十月蒙古兵船對馬嶋ヘ寄來

武士等防戩セキ。蒙古ノ兵法亂ミヤテト、ノホラス其上天
夕子ツキケレバ筑紫ノ海邊處々エビ盪ウ妙マレテ歸ル。同月。
本院後深草ノ御子熙仁ヲ東宮ニ立ラル。此御子ハ主上
ヨリ歳ニツミサリタマフユ。新院龜山ノ代ニ東宮ヲアラス
ヒタマフ。サレドモ後嵯峨法皇ノ御心新院ヘトヲホシメス
ヨレ。御母大宮女院ヨリ。關東ヘ仰セツカハサルユ。主上
ノ御位サダニリス。故ニ新院ハ位ユヅリテ後モ政務ヲ
レロシメシ心ノ一ニフルミイタマフ。本院ハ何事ニモカ
イタマハ子ハ世ヲ捨タテ落飾シセテラホシメシケルトコロニ北
條時宗ガハカラヒニテ。熙仁ヲ東宮ニ立申ケレバ本院
ヨロコビテ。落飾ニ及ズ。新院ノ心モトケテ。本院ト御中ヨ
クナリケレバ。大宮女院モ嘉悅セラル。此以後ハ讓位即

位立場モ皆關東ヨリノハカラヒナリ
建治元年二月。蒙古ノ使者杜世忠等日本ヘ渡ル。高麗
人モ同ク來ル。太宰府ニテコレヲ改テ。杜世忠等二人ヲ
鎌倉ヘ遣ス。洛中ヘハイレズ。書簡來ルトイヘトモ返簡
ニヲヨバズ。六月。九條前攝政忠家薨ス。歳四十七。
一音院ト号ス。八月。花山院前右府通雅太政大臣
ニ任ス。十月。一條家經攝政并ニ左大臣ヲ辞ス。鷹司
前關白兼平攝政。十二月。一條右府師忠左ニ轉
シ。九條大納言忠教右府ニ任ス。花山院師繼内府ヲ辞
ス。近衛家基内府ニ任ス。忠教ハ忠家子
家基ハ基平子 同月。北條
時國上洛。六波羅ノ南ノ方タリ。時房ガ
曾孫也 今年僧一遍初
テ時宗ヲ開ク

二年五月花山院相國通雅薨ス。歲四十四。十二月。攝政兼平太政大臣ニ再任ス。今年蒙古ノ使者長門國ニ到着。鎌倉ヘ召下シ首ヲ刎ラレ

三年正月。主上元服。歲十一。兼平加冠タリ。理髮ハ頭中將具顯ナリ。同月。龜山上皇ヘ朝覲行幸

三月。右清水行幸。四月。賀茂行幸。同日。兼平太政大臣ヲ辭ス。五月。北條義政執權加判ヲ辭シ。

剃髮シ。信濃塩田ニ閑居ス。時宗一判ニテ。大小事ヲ下知ス。十二月。東宮熙仁元服。春宮傳二條左大

臣師忠加冠タリ。春宮大夫源具守理髮タリ。弘安元年正月。北條時村上洛。六波羅ノ北ノ方

政村カ子ナリ。十二月。兼平攝政ヲ辭シテ關白トナル。

二年正月。將軍源惟康正五位ニ叙ス

三年二月。蒙古ノ使者杜世忠ヲ殺ス。此事傳聞ケルニヤ。蒙古ノ大將等。太軍ヲ率テ日本ヲ滅シトカ

ヨシキコヘケレハ。公家ヨリ伊勢ヘ勅使ヲカハサレ。諸寺諸社ヘ祈念セラル。北條時宗鎌倉ニ居テカ

武士等ニ命ジテ。防戰ノ備ヲナサレ。關東コリ軍兵ア

タノボセテ。主上東宮ヲ守護シ奉リ。本院後深草新院。龜山ヲ關東ヘ御幸ナシ申ベシト議定ス。又筑紫ノ

左右ニヨリテ。兩大波羅ノ兵。鎮西ヘ下向スベシト下知セラル

四年正月。蒙古國ノ大將阿剌罕。范文虎。忻都。洪泰。丘四人十萬人ヲヒキ。六萬艘ノ兵船ニテ海ニ浮

阿刺罕ハ路次ニテ病ニカレリ。范文虎等軍評定、一
千ク十シリレユヘ。一決クシガタシ。七月、蒙古ノ兵船ノ
コラス日本ノ平壺嶋ヒラウジマニ著ツ。其ヨリ五龍山ゴリウサンヘウツル筑紫
ノ武士トモ待カケテ合戦セントスルトコロニ八月一日。
大風吹テ蒙古ノ船悉ク破損ス。范文虎等ノ諸太
將タウヨキ船ニ取乗テ行方シラス逃ニテ行ク。十萬ノ軍勢
五龍山ノ下ニ漂タアリシガ兵糧ヘイリョウナクシテ飲食オンシヤクセザ
ルコト二百ニ及ブサレドモ諸人相談シ張チヤウトシテ云モ
ノヲ物頭モノカミトシ船ヲ造リカヘントスルトコロニ尙七日日
本ノ兵トモ押寄オシヨリ一攻ヒキレハ蒙古戰ウチマケテ討死ウチシ、者多
シ。打殘ウチノコサレタル三萬人ヲバ日本ノ兵トモ皆コレヲ生
捕ウチテ八角嶋ハクカクジマニテコトコトク斬殺ス其内干闥カンタツ莫青モクシヤウ兵

萬五ト云ル三人ハカリヲユルシテ此趣オモキカタレトテ國ヘ
歸ラシム。六波羅ヨリ宇都宮貞綱ヲ大將ニテ中
國ノ勢ヲアツメ筑紫ヘ赴ク備後ノ邊ニテ蒙古ス
テ破ヤク聞クト云トモ貞綱ハ九州ヘ下リ彌異賊ミイサウ襲來ウチ
ノ備イヲナシテ歸ル。此度ノ大風諸神冥慮ミヤケリヨノ驗トクナリ
トテ伊勢ノ風ノ社ヲ風ノ宮トアガメラル我國ノ神
風蒙古ノ船ヲ吹破トハ此時ノ事ナリ。又世ニモクリ
コクリト云ニテソノロシキ事ニ云ナラハスハ蒙古國モククニ裏
「云事ナルベシ。干闥等三人逃ニレ歸テ此趣オモキヲ蒙古ノ
君ニカタル蒙古ノ君ハ元朝ノ世祖皇帝ナリ
五年十月興福寺衆徒朝家ヲウラニ春日ノ神木
ヲ捧サガテ入浴。十二月、中納言源具房ヲ誅ウチテ安藝

國へ流ス。其後神木歸座。今年北條時宗圓覺寺ヲ建
テ。禪僧祖元ヲ開山トス。祖元ハ此比時宗カ招_ヒニテ。
中華ヨリ來朝セリ。佛光禪師ナリ。是ハ重時カ五男ナリ。
六年二月。時宗北條業時ヲレテ。執權ノ加判セシム。

七年正月。久我大納言源基興從一位ニ叙シテ。官職
ヲ辭ス。二月。大臣ニ准_シテ。朝參セシム。儀同三司
ト號シ。大臣ノ下。大納言ノ上ニ列ス。四月四日。北條
相模守時宗。病ニヨリテ。剝髮_{ハツ}道果_ミト號ス。同日ニ卒
ス。歲三十四。寶光寺ト號ス。文永元年ヨリ。今年一テ。
執權タルコト二十一年ナリ。嫡子左馬權頭貞時。十四
歲ニテ。遺跡_{オノヰ}相續_ツシ。將軍惟康ノ執權タリ。北條業

時加判ス。貞時カ外祖秋田城公泰盛陸奥守ニ任
ス。其威勢肩ヲ並_ナフルモ。ナシ。同年。北條時國六波
羅_ニ逆心_スル由キコヘケレバ。關東へ呼_ヒ下_シ。常陸國へ
流シ。其後遂_ニ殺ス。七月。一條前關白實經薨ス。歲
六十二。圓明寺ト號ス。今年。元朝ヨリ王積翁_{キキウ}ト
云ル使者_ニ如_ヒ智_チト云ル禪僧ヲソヘテ。日本へ渡シ。我
國ノ風俗ヲウカ_ヒ見セシム。路次ニテ王積翁。同船ノ
者ニ殺サレヌレハ。其事ヤニヌ。此比龜山ノ新院并鎌倉
ノ北條禪法ヲ好ムヨレ。異國へ風聞スルユヘナルヘシ。
八年二月。北山ノ准_シ后從上位貞子九十ノ賀行ハル。
是ハ鷲尾大納言隆衛_{リウヱ}ガ娘ニテ。故西園寺相國實氏
ノ室ナリ。大宮女院ノ母ナレハ。本院_{後深草}新院_{龜山}

ノ外祖母ニテ。主上後宇多東宮伏見ノ曾祖母十
リ。本朝古來ノメテ夕キ例アリト云トモ。或ハ壽命短
クテ。御子ノ在位ヲ見ス。或ハ御子ノ帝ニラズレテ。長
生ヲ悔ルモアリ。大宮女院ノ帝三代ノ國母ニテ。主上
東宮ヲ孫ニモテ。其母猶存生ニテ。一家富榮ヌレバ。
タメレスクナキ果報ナリ。此賀ニモ主上北山ノ行幸。兩
院モ御幸。東宮モ行啓ニテ。サレノ御遊アリ。四
月鷹司前關白基忠太政大臣ニ任ス。父兼平前相國
ニテ再任關白ノ當職ナリ。父子ノ榮。一時ニテラビナ
レ。同月北條貞時相模守ニ任ス。秋田城ノ泰盛外
祖ノ執勢ヲ假テホレヒニ。威ヲ振テ。貞時カ内管領
平左衛門尉賴綱ト云モノアリ。泰盛ト中アレシヒテ

權ヲ爭フ。泰盛カ子宗景驕クアリ。曾祖景盛公。賴
朝ノユカリアリト云ニ。藤原姓ヲ改テ源氏ニナル。賴
綱コレヲ訴テ。彼源氏トナル事。將軍ニテフシト志ナ
ルレ。甲ケレバ。貞時モケニモト思ヒケルカ。實ニ逆心
アリケルニヤ。同年十一月。泰盛宗景以下一族并
其同類皆誅セラレヌ。是ヲ霜月騷動ト申ス。コレヨリ
賴綱一人ニテ威ヲ振ヘリ。賴綱髮ヲソリテ果圓ト
號ス。今年北條兼時上洛。六波羅ノ南ノ方ニアリ。
是ハ時賴カ孫ナリ。
十年六月。將軍惟康中納言ニ任シ。右大將ヲ兼ラル。
同日北條業時剃髮ス。貞時北條宣時ヲシテ。業時
二代テ執權加判セシム。是ハ時房カ孫ナリ。北條時村

京ヨリ鎌倉へ歸ル。八月鷹司關白兼平上表ス。二條左府師忠モロ關白トナリ。十月惟康二親王宣下アリテ。二品ニ叙ス。同月主上位ヲ東宮ミヤ熙仁ニ讓ル。主上今年ワツカニ十一歳ナレ。龜山ノ新院モノコリヲホクヲホシメシ。主上モ本意ナラ子トモ後深草ノ本院待カ子タラフヘシト。關東ヨリ奏シ申セ。御心ノ下、ナラス讓位アリケルトナシ。年號建治三年。弘安十年合在位十三年。

九十一代

伏見院 諱熙仁。後深草院ノ子。母ハ玄燿門院藤原愔子山階左大臣實雄カ娘ナリ。文永十一年十月北條時宗カハカラフニ。東宮ニ

立。弘安十年十月即位。時三十三。二條師忠關白タリ。此時太上天皇三人アリ。後深草院政ヲシロシメス。一院トモ本院トモ號ス。龜山院ハ中ノ院ト號ス。後宇多院ハ新院ト號ス。昔ニヒキカヘ何事ニモカノワズ。正應元年四月關白師忠左大臣ヲ辭ス。六月西園寺大納言藤原實兼カ娘ハ内實兼ハ公相カ子ナリ。七月九條右府忠教左ニ轉ジ。近衛内府家基右府ニ任ス。久我大納言源通基内府ニ轉ス。九月通基トモキ學淳和兩院別當源氏ノ長者トナリ。兩院別當ハ久我ノ家久ク傳ヘ任セシガ源氏長者ノ仰ハ是ヨリ始ルトナシ。十月通基内府ヲ辭ス。鷹司冬忠内府トナリ。基忠ノ弟ナリ。今年北條兼時

六波羅ノ南ノ方ヨリ北ノ方ニ移リ。北條盛房ヲ
レテ。南ノ方ニ居シム

二年四月。二條師忠關白ヲヤメテ。近衛右府家基
關白トシ。同月。主上第一ノ皇子胤仁ヲ太子ト
ス。八月。准大臣源基具太政大臣ニ直任ス。九
月。鎌倉騷動ノ事アリ。將軍惟康親王俄ニ上洛セラレ
去。八月十五日。鶴岳放生會ニテ。行糲ヲツクロヒ。參
宮。相模守貞時。陸奥守宣時ヲ始トシ。武士トモ圍繞尊
仰セシカ。俄ニ事サハカレクナリテ。網代興サカレ。ニヨセテ。
惟康ヲ載テ。鎌倉ヲ追出セリ。輿ヲサカサニノリテ
出ルモノハ。再歸ルコトナレト云テ。諺アルユニ。ガクハカライ
ケルニヤ。時ノ人。鎌倉ノ將軍トニヤコヘ流レタマフトソコ

ズサニケル。文永三年ヨリ今年ニテ。在職二十四年ナ
リ。入洛ノ後。剃髮シ。嵯峨ノ邊ニガスカニ住レケルトゾ。時
三二十六歳。九月。北條貞時ガハカラヒニテ。後深草
本院ノ御子。主上ノ御弟。又明親王ヲ。鎌倉ヘ迎ヘ
奉リ。主君ト仰ヘシトテ。飯沼判官。云モノ以下。名ア
ル武士七人。御迎ニ上洛。飯沼判官ハ。頼綱入道ガ次
男ナリ。十月。又明親王元服。征夷大將軍ニ任シ。一
品ニ叙シ。式部卿ヲ兼ラル。スナハク仙洞ヨリ六波羅ヘ
ウツリ。遂鎌倉ヘ赴タマフ。時二十六歳。惟康飯洛ノ
時通ラル。足柄越ヲハサケテ。別ノ路ヨリ下向ス。鎌倉
ニテモ。惟康ノ住ケル館ヲバコボク。新幕府ヲ造テ。貞
時等カレヅキ奉ル。惟康ノ娘ヲ。又明ノ御息所トス

同日關白家基右府ヲ辭ス。鷹司内府兼忠右府ニ
任ス西園寺大納言實兼内府ニ任ス。實兼娘中宮
ニタツト云トモ子ナレ皇子胤仁ハ參議藤原經ニシテ
娘ノハラニ出來タリレヲ。中宮ノ養ヒニテ即太子ニ立
テ。實兼外戚ノ威ヲフルヘリ。是モ北條トシタレキコトヘ
シ。

三年三月四日。紫宸殿ノ獅子狛犬中ヨリウレタリ。人
皆アヤシム。九日ノ夜。田斐源氏ノ末淺原ハ即爲頼
十云モノ。其子二人ヲ携テ甲冑ヲ著レ馬ニ騎シカラ。
内裏へ馳入。女房トモ一向テ。主上ノ御座所ヲ尋問。
アナタコナタスル内ニ主上ハ女房ノスカタニテ忍ビ出テタ
マヒ。中宮東宮モヒソカニ他所へ逃タマフ。爲頼父子

中宮ノ御方へ尋行テ。御座所ヲモトム。宿直ノ侍ト
モト戰フ内ニ近邊籬ノ武士五十騎馳來ル。爲頼カ
ナレト思テ。夜ノヨトノ御茵ノ上ニテ自害。其長男
公繁。宸殿ノ御帳ノ中ニテ自害ス。次男ハ大障子ノ
下ニ閉テ暫矢ヲ放テ防ケル。九武士等生捕テシケ
レバ。ガナレテ自害ス。其屍ハ六波羅へ遣シテ實檢ス。
爲頼カ放ツ矢ジルニ。太政大臣源爲頼ト書セシトナ
シ。抑爲頼ハ強弓大カニテ惡逆ノ張本ナル故ニ鎌
倉ヨリ其所領ヲ沒收シ。國へフレテ捕シム身ノ置處ナ
キコトニガクノゴトク。アサニキ事仕出シケルニヤ。然
レドモ爲頼カ自害セシ刀ハ三條宰相中將實盛カ家
ニ相傳セル刀ナリト云ニヨリテ。六波羅ヨリ實盛ヲ

召捕テ敷問スコレヨリ糾明ツノリテ龜山中ノ院ノ
御心ヨリヲコルト沙汰アリ。西園寺實兼太子中宮大
夫公衡コレヲ聞テ皇統アラタマリ。武家ノカヲヒテ。
賞今即位シタマフヲ。中院 龜山 新院 後宇多ウラミタ
マヒテ。密ニ爲頼ニ仰付ラル。十人ニ中院ヲ六波羅
ヘウツレ申レ。評議ノ上ニテ遠流ニ處レ申サント。本院
後深草ヘ奏スト云トモ御許容ナレ。中ノ院新院大
ニサワキ誓旨ノ鎌倉ヘツナハサレ。謝レタマヘ武家コ
トナル沙汰ニ及ズレテ。事ニツマリヌ。同月源基具
太政大臣ヲ辭ス。四月西園寺實兼内大臣ヲ辭
ス。六月大炊御門大納言信嗣内大臣ニ任ス
九月中院 龜山 落飾歳四十一。金剛覺ト號ス。禪林

寺殿ト申ス。禪宗ヲ歸依シタマフ。今ノ南禪寺。此
院ノ皇居ナリ。十二月信嗣内府ヲ辭ス。洞院大
納言公守内府トナル。是ハ實雄ガ子ナリ。
四年二月本院 後深草 落飾年四十八。法諱ハ素實
ト云。五月近衛家基關白ヲヤメラレテ。九條左府
忠教關白トナル。七月洞院公守内府ヲ辭ス。二條
兼基内府トナル。十二月忠教左府ヲ辭ス。同
月西園寺前内大臣實兼太政大臣ニ任ス。鷹司右府
兼忠左ニ轉ジ。二條内府兼基右府ニ轉ス。德大寺公
孝内府ニ任ス。抑後堀川院貞應元年西園寺公經太
政大臣ニ任セヨリ以來。實氏公相實兼ニ至マテ。四
代相續テ任ス。西園寺四代相國トハ是ナリ。

五年五月。公孝内府ヲ辭ス。八月。大納言從一位源定實准大臣。十一月。三條實重内府ニ任ス。十二月。實兼太政大臣ヲ辭ス。

永仁元年正月。三條實重内府ヲ辭ス。九條師教内府ニ任ス。二月。九條忠教關白ヲ止テ近衛家基關白ニ再任ス。三月。北條貞時初テ北條兼時ヲ。六波羅ヨリ筑紫ヘツカワシ。鎮西ノ探題トシ西國ノ成敗ヲ掌リ。異賊ノヲサヘトス。又一族ノ内一人ヲ長明ノ探題トシ。中國ノ事ヲツカサドラシム。北條久時ヲ。六波羅ノ北ノ方ニ居シム。兼時ガ代ナリ。久時ハ長時ガ孫ナリ。四月。鎌倉大地震。壓死者一萬人ニ及ベリ。此比貞時カ管領平左衛門尉頼綱入道果圓ホシヒマ、

ニ威ヲ振フ。其次男飯沼判官。父ニシトラス。權勢アリ。時ノ入コレヲ飯沼殿ト號ス。又安房守ニ任ジ。驕ノアリ。貞時ヲ十ヒカレロニスルノミナラス。頼綱ヒソカニ安房守ヲ將軍ニ任セント謀ル。頼綱カ長男宗綱。コレヲ貞時ニ告コレニヨリテ。頼綱并安房守誅セラレヌ。宗綱ハ佐渡ヘ流サル。其後召歸サレ管領タラシム。又罪アリテ上総ヘ流サル。十二月。一條前攝政家經薨ス。歳四十六。後光明峯寺ト號ス。二年八月。鷹司前關白相國兼平薨ス。歳六十七。稱念院ト號ス。三年六月。北條兼時鎮西ヨリ鎌倉ヘ歸リ。九月。病死年三十五。

四年六月近衛關白家基薨ス。歳三十六。淨妙寺ト號ス。七月。鷹司左府兼忠關白トナル。左府ヲ辭ス。十一月。吉見孫太郎義世ト云モル謀叛事アラハレテ。鎌倉ニテ斬ル。義世ハ三河守源範頼ガ末葉ナリ。十二月。二條兼基左府ニ轉ス。九條師教右府ニ任ス。准大臣源定實内府ニ任ス。

五年五月。北條盛房六波羅ヨリ鎌倉ヘ歸ル。六月。北條又時六波羅ヨリ鎌倉ヘ歸ル。北條宗方北條宗宣上洛。兩六波羅タリ。宗方ハ北方タリ。宗宣ハ南方タリ。十月。源定實内府ノ官ヲ止ラレテ。又我大納言源通雄内大臣ニ任ス。大納言源通頼准大臣。今年。北條貞時諸國ヘ使者ヲ遣ヒ。守護ノ善惡ヲ尋

民間ノ愁苦ヲ問フ。是ヨリ年々使者ヲツカハス。其使者往リキニテ惡事アリケルヲ貞時ニラサレ處ニ出羽國羽黒ノ山伏來テ直訴シケルニヨリテ。彼使者ガ惡事ヲ糾明シテ罪ニ行フ者百人アリ也。其後諸國ヨク治リテ人皆其善政ヲ感ス。

六年二月中納言藤原爲兼隱謀ノキコヘアルニヨリ。武家ヨリユレヲ捕テ佐渡ヘ流ス。六月。又我内大臣通雄官ヲ辭ス。西園寺大納言藤原公衡内大臣ニ任ス。七月。主上位ヲ太子胤仁ニ讓ニ。伏見殿ニ遷リタラ。持明院殿トモ申ス。年號 正應五年 永仁六年台

在位十一年
九十二代

後伏見院

諱八胤仁伏見院ノ太子也母八中宮永福門

院西園寺相國實兼カ娘ナリ實ハ宰相藤原經氏カ
女經子カ産ルトコロナラフ中宮養ニテ太子ニ立ラレ

永仁六年七月即位時二十一歳鷹司關白兼忠攝政ス

此時後深草龜山後宇多伏見皆存生ニテ院ノ御所

四入アリ八月後宇多ノ院ノ子邦治ヲ東宮ニ立ラ

ル主上ノマタイトコナリ十二月兼忠攝政ヲ止ラレニ

條左大臣兼基攝政ス

正安元年四月攝政兼基左府ヲ辭ス九條師教左ニ

轉ジテ西園寺公衡右府ニ任ス鷹司大納言冬平内

府ニ任ス六月洞院前内府公守太政大臣ニ任ス

同月西園寺前相國實兼落飾歳五十ノ月公

守太政大臣ヲ辭ス十一月二條攝政兼基太政大臣

ニ任ス十二月公衡内府ヲ辭ス徳大寺前内府公

孝右府ニ任ス今年元朝ヨリ禪僧一山來朝ス是ハ

彼國主ノ密詔ヲウケテ日本ヘノ間諜ノ爲ナリ北條

貞時コレヲサトリテ一山ヲ捕テ伊豆ヘ流ス其後赦免

シケレドモ一山本國ヘ返ラズ日本ニ留リ禪法ヲ弘メ南

禪寺ノ住持トナル此比來朝ノ禪僧ニ公一山ガタケヒ

猶多カルベシ

二年正月主上元服攝政兼基加冠タリ四月兼

基太政大臣ヲ辭ス七月北條實政鎮西探題ト

ナリテ下向是ハ義時五代ノ孫ナリ十一月北條

宗方六波羅ヨリ鎌倉ヘ歸ル十二月兼基攝政ヲ

止ニ關白トナル

三年正月鎌倉ヨリ隱岐前司時清山城前司行貞使節トシテ上洛シ主上ノ御位ヲスヘラセ奉リ東宮へ譲リシス主上十四歳ニテ太上天皇ノ尊號ヲ蒙ル年號ハ正安在位三年

九十三代

後二條院 諱ハ邦治後宇多院ノ第一ノ御子ナリ母ハ源基子又我大納言具守カ娘ナリ十三ニテ東宮ニ立正安三年正月武家ノハカラヒニテ即位時二十七歳一條兼基關白タリ龜山法皇後宇多上皇院中ニテ政務ヲキコレメス伏見後伏見在位ノ時ニハ參リ仕ル人モ稀ナリニ又ウツリカハレリ 六月土御門

前内府源定實太政大臣ニ任ズ後宇多上皇ノ寵臣ニテ其子大納言雅房中納言親定皆各庸セラレ同月北條基時上洛六波羅ノ北方ニアリ業時カ孫ナリ 八月伏見上皇ノ第一ノ子富仁ヲ東宮ニ立ラル 同月北條貞時剃髮法名ヲ崇演トシテ執權ヲハ其婿北條師時ニ讓ル師時ハ時頼カ孫ナリ 九月北條宣時モ剃髮ス北條時村ハ政村カ子ニテ年長タルニコリテ貞時カハカラヒニニ師時ニ副テ執權加判セシム時村カ孫熙時モ貞時ガ聲ナレバ師時時村甚睦シクシテ貞時カ旨ヲ受テ事ヲ行フ 乾元元年正月北條宗宣六波羅ヨリ鎌倉へ歸ル北條貞顯其督トシテ上洛 六月龜山殿へ行幸法皇ニ

嘉元元年十月北條基時京ヨリ鎌倉へ歸ル 十一月
北條時範其代リテ上洛 今年貞時カ子高持誕生
或ハ永仁元年二生レタリトモ云リ
二年三月德大寺公孝太政大臣ヲ辭ス 七月後
深草法皇富小路ノ御所ニテ崩ス 歳六十二 兩六
波羅貞顯時範士卒ヲ率テ門前ニ來テ床机ニ腰カ
ケテ候ス 伏見殿ニテ葬禮アリ 十二月一 條内府
内實薨ス 歳二十

三年正月近衛大納言家平内府ニ任ス 此北條師
時北條時村二人貞時カ各代トシテ執權ス 北條宗
方公時頼カ孫ナリ 師時ト權ヲ争フ 然レドモ時村モ
師時トシタシキユヘ其勢ソヨニ故ニ先時村ヲ殺シテ
後師時ヲ謀シトヲモヒ 密ニ將軍久明ノ仰ナリト稱シ
兵ヲアツヌ 時村ヲ夜討シテ攻殺ス 時村時ニ六十四
歳也 貞時怒テ北條宗宣ト 宇都宮貞綱ヲ遣テ宗
方ヲ討殺ス 其同類皆殺サル 宗宣フシテ師時ニ副テ
執權加判セシム 四月二條兼基關白ヲ止テ 九條
左府師教關白トナル 左府ヲ辭ス 九月龜山法皇
崩ス 年五十七 葬送ノ時後宇多上皇モ供奉セラ
ル 公卿殿上人多ク從ヒ奉ル 此法皇在位ノ初十三ノ

御歳ヨリ御子出来テ讓位ノ以後腹々二年々男
女ノ御子アリタリ別腹ノ御妹ニモ忍ヒテ通ヒタヒテ皇
女誕生ス落飾ノ後モ御子アリタリトナシ 七月德
大寺前相國公教覺ス年五十三 十二月鷹司右
府冬平左府ニ轉ジ近衛内府家平右府ニ昇リ一條
大納言實家准大臣遂ニ内府ニ任ス 同月西園寺
前右府公衡後宇多上皇ノ勅勘ニヨリテ伊豆伊豫
兩國并左馬寮ノ職召放ラル實ハ武家ヨリ申レ行
フヨレナリ

德治元年二月公衡勅免ヲ蒙テ出仕所領皆返レ
賜ル武家ヨリ執奏スルハナリ 六月一條實家内府
ヲ辭ス 十一月家實太政大臣ニ任ス二條大納言

道平内府ニ任ス

二年二月。中納言平經親勅使トシテ鎌倉へ下向
三月歸洛ス 七月國母遊義門院崩ス年三十八
後宇多上皇最愛ノ御方ナルニヨリテ悲歎ニタヘス御
落飾法皇ト號ス時二四ノ歳ナリコレヨリ真言ノ密法
ヲ傳授シ女色ヲ絶テ嵯峨大覺寺ヲ建テ寬平ノ
跡ヲ慕フ或說ニ遊義門院崩セシ翌年ニ御グレヲ
尸レタマフトモ云リ 八月北條時範六波羅ニテ死ス
北條貞房其代トシテ上洛ス
三年七月北條貞時カハカラヒニテ將軍久明親王歸
洛セラレ正應二年ヨリ今年マテ在位二十年天下ノ
武將ノ名ハカリニテ大事小事皆北條カニナレドモ

漸年ヲ歴ル^ルト久キユ^ハ職^ヲカヘケルニヤ。又明ノ子守^ト邦親王^ヲツカニ七歳ナリ^ニヲ。征夷大將軍^ニ仰キテ鎌倉ノ主トス。貞時ステニ^ハ嗣^ハ髮^ナルユ^ハ北條師時^ト北條宗宣^トレテ執權連署^ト守邦ノ母ハ惟康ノ娘ナリ。八月主上崩ス。歳二十四。年號 乾元一年 嘉元三年 德治二年餘。合^テ在位六年餘。

九十四代

花園院 諱富仁。伏見院第二ノ子也。母ハ顯親門院藤原厚子。左大臣實雄カ娘ナリ。後二條在位ノ時關東ノカヲヒニテ。東宮ニ立ラレ

德治三年八月。後二條崩ス。東宮即位十二歳。九條關白師教攝政。然見上皇院中ニテ政^レロ^レメス。九月。

武家ノカヲヒニテ。後宇多法皇第二ノ皇子尊治ヲ東宮ニ立ラレ。十月。改元延慶。十一月師教攝政ヲ止テ。鷹司左府冬平攝政。

延慶二年三月。冬平左府ヲ辭ス。西園寺前右府公衡左府ニ轉ス。六月。公衡辭退。十月。二條實家太政大臣ヲヤメラレテ。大炊御門前内府信嗣太政大臣ニ任ス。近衛右府家平左ニ轉^レニ^テ一條内府道平右府ニ任^レ家平カ弟大納言經平内府ニ任ス。

三年四月。堀川大納言源具守從一位ニ叙^レ准大臣。十一月。北條貞房。六波羅ニテ死ス。北條時敦其代トシテ入浴ス。十二月。信嗣太政大臣ヲ辭ス。攝政冬平太政大臣ニ任ス。主上元服加冠ノ役ノ入^ルハ其前方

太政大臣ニ任スル例ナリ
應長元年正月。主上元服。時二十五歳ナリ。冬平加冠
タリ。近衛左府宗平理髮タリ。三月。冬平復辟ニ
關白トナリ。同月。前大相國信嗣薨ス。歳七十六。八
月。西園寺前左府公衡薨。此ハ相國ニ任セラレト
沙汰アリシガ。辭退シテ任セス。別號ヲ竹林院ト稱
ス。九月。北條師時頓死。歳三十七。十月二十六
日。北條相模守貞時卒ス。歳四十一。最勝園寺ト號ス。
弘安七年ヨリ。正安二年一。執權當職十八年。剃
髮ノ後十年。合二十八。年ナリ。嫡子高時僅二十九歳ナ
リ。北條宗宣ト。北條熙時ト。執權連署ス。熙時ハ。時
村カ孫ニト貞時ガ婿ナリ。貞時カ内管領長崎入道

圓喜ト。高時ガ舅。秋田城ハ。時顯ト。貞時カ遺言ヲ
受テ。高時ヲ輔佐ス。圓喜ハ。平左衛門頼綱カ甥。光綱ト
云モノ。子ナリ。時顯ハ。城陸奥守泰盛ガ弟。顯盛ト
云モノ。孫ナリ。

正和元年六月。北條宗宣死。熙時一判ニテ。諸事ヲ
奉行ス。圓喜時顯。二人威ヲ振フ。
二年七月。鷹司前關白基忠薨ス。歳六十七。關白冬
平。父ノ忌ニヨリテ。當關白ヲ辭ス。近衛家平關白タリ
十月。伏見上皇。政務ヲ後伏見上皇ニ讓テ。落飾シタ
マフ。主上ハ。元來後伏見ノ養子タルニヨリテ。朝覲等ノ
儀。父子ノ禮トシ。十二月。近衛家平左府ヲ辭ス。
二條道平右府ヨリ左三轉。近衛經平内府ヨリ右

府ニボル堀川大納言源具守内府ニ任ス

二年十一月北條貞顯六波羅ヨリ鎌倉へ歸ル

四年三月源具守内大臣ヲ辭ス洞院大納言實泰

内大臣ニ任ス 七月北條源時死ス北條基時北條貞

顯執權連署ス基時兼業時ガ孫ナリ貞顯兼業時カ五

男ニ實泰ト云レ曾孫ナリ實泰ガ子越後守實時金

澤ニ居住ス稱名寺ト號ス其子ヲ越後守顯時ト云

貞顯ガ父ナリ皆金澤ニ住スルユ家號ヲ金澤ト云リ

稱名寺内ニ支庫ヲ立テ倭漢ノ群書ヲアツク金澤文

庫ト云ル印ヲ押タリ儒書ハ黒印ヲ用ヒ佛書ハ朱

印ヲ用ユ其舊跡今ニ傳レリ 九月鷹司左府冬平

關白トナル 同月北條維貞上洛六波羅ノ南ノ方

五ノアノリ

五年正月前内府源具守薨ス 七月北條高時初

テ將軍守邦ノ執權トナリテ評定ノ座へ出時十四

歳北條基時執權ヲ辭ス後ニ稱名ニテ信忍ト稱シ普

恩寺ト號ス 八月冬平關白ヲ辭ス二條左府道平

關白トナル左府ヲ辭ス 十月近衛右府經平左轉

シ洞院内府實泰右府ニ任シ今出川大納言公顯内

府ニ任ス

文保元年三月高時十五歳相模守ニ任ス生ヒツキ執

權ノ器量ニ相應セスト云トモ泰時以來ノヲキテヲ以テ

秋田城以時顯長崎園喜コレヲ取立ントス 六月洞

院實泰右府ヲ辭ス今出川内府公顯右府ニ任ス

三條大納言公茂（抄）内府ニ任ス。九月伏見法皇崩年
五十三

二年二月主上位ヲ東宮尊治（名）ニ譲ル。主上六十二歳。
東宮ハステニ三十二ア（リ）タマフユヘ後宇多法皇ヲ
ハジメ其方サマノ人待カ子申サルベキ由ニテ關東ヲ
リハカラヒ申ケリトナシ年號。延慶三年。應長
一年。正和五年。文保二年合在位十一年。

王代一覽卷之五

（以下は極淡く書かれた文字で、内容はほとんど読み取れない）

